EMBEDDED TECHNOLOGY SOFTWARE DESIGN ROBOT CONTEST

ETロボコン2025

ソフトウェアモデリング＋ロボット制御コンペティション

主催 一般社団法人 組込みシステム技術協会 Japan Embedded Systems Technology Association

企画運営 ETロボコン実行委員会

www.etrobo.jp

ETロボコン2025

Embedded Technology
Software Design
Robot Contest

ソフトウェア・モデリング＋ロボット制御コンペティション

チャンピオンシップ大会 パシフィコ横浜

テスト走行	競技会	モデリングワークショップ
11月19日(水)	11月20日(木)	11月21日(金)

エントリークラス大会

オンライン

10月19日(日)

https://www.etrobo.jp/

北海道地区大会	9月21日(日)	南関東地区大会	9月28日(日)	中四国地区大会	9月14日(日)
東北地区大会	9月20日(土)	東海地区大会	10月 4日(土)	九州北・九州南地区大会	9月21日(日)
東京・北関東地区大会	9月14日(日)	関西・北陸地区大会	9月13日(土)	沖縄地区大会	9月27日(土)

主催　一般社団法人 組込みシステム技術協会 Japan Embedded Systems Technology Association

特別協力　SESSAME

スポンサー

GOLD　KOMATSU　Panasonic AUTOMOTIVE Panasonic ITS Co., Ltd.　ADVICS　eXmotion　FUJIFILM 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社　systena

SILVER　Canon キヤノンITソリューションズ株式会社　ACCRETECH トーセーシステムズ　CIC　SCSK　EXEO Digital Solutions

BRONZE　NSK　KEIKI　EPSON　Patriot　HITACHI　Anritsu　OKI　tdi　TDCSOFT　Afrel　日立建機　DPS　EMS　MS&AD MS&ADシステムズ　GENETEC

地区スポンサー

GOLD　<北海道地区> マイナビ　<東北地区> マイナビ　ALPS ALPINE　<南関東地区> CEC　ZUKEN　<東海地区> KOWAMEX　FUJI　<関西・北陸地区> 株式会社大阪エヌデーエス　<中四国地区> ひろしま自動車産学官連携推進会議　<九州北地区> マイナビ　<沖縄地区> 株式会社ヴィッツ沖縄

SILVER　<関西・北陸地区> FUJITSU　BRONZE　<北海道地区> RICOH　<東北地区> 株式会社イーアールアイ　<東京・北関東地区> PANDUIT　<南関東地区> 神奈川工科大学　<九州南地区> SRC

特別協賛　岩手県　盛岡市　滝沢市　TOPPERS

協力企業　UMTP　Unity　Afrel　Eureka Box　PANDUIT

地区特別協力 開催協力　北海道情報大学　公立はこだて未来大学　東北　いわて　北関東　新潟経営大学　東京　早稲田大学　ALPS ALPINE　ものつくり大学　TECHNOPRO Design　南関東　神奈川工科大学　情報科学専門学校　東海　DENSO　AIT愛知工業大学　ADVICS　関西・北陸　FUJITSU　中四国　福山大学　九州北　九州産業大学　QUEST　唐津ビジネスカレッジ　九州南

メディアスポンサー　BCN　MONOist　EdTechZine　バレッド VALED PRESS

後援　IPA　KOSEN

協賛　(一社)情報処理学会　(一社)日本ロボット工業会

運営(会場)協力　NECソリューションイノベータ株式会社　TDCソフト株式会社　九州産業大学　琉球大学

企画・運営　ETロボコン実行委員会

知らない人はETロボコンが分かる
知っている人はもっと好きになる

ETロボコンは「組込みソフトウェア」の設計技術を競うロボットコンテストです。「組込みソフトウェア」とは、さまざまな機械の中にコンピュータ・システムを合体させて、機械の動きをコントロールするプログラムです。ETロボコンは、純粋にソフトウェアの良さで競いますので、ロボットは同じものを使います。

ETロボコン24年目は、オンラインとリアルのハイブリッド開催

シミュレータの活用

P6

シミュレータで試した後に実機に落とし込むことで、開発の効率が飛躍的に向上します。
システム開発で必要不可欠な構築技法(モデリング)の教育に加え、シミュレータと実機を活用することで、
実際の開発現場に近い、最先端のシステム開発の全体像を学ぶことができます。

オンラインとリアルの両方を活かした「学びの場」

技術教育や相談会等はオンラインでの実施を残しつつ、試走会や大会はリアル会場で実施します。
また、エントリークラスは全プログラムオンラインで参加することが可能です。
参加者は、組織や場所等の制限なく設計技術やシミュレータ環境構築について学ぶことができます。

レベルに合わせた3つのクラス

これからソフトウェア開発に携わりたい方

① シミュレータ部門 エントリークラス P8-9

技術の基礎を学び、スキルを磨く

② フィジカル部門 プライマリークラス P10-P11

技術を応用できるスキルを磨く

③ フィジカル部門 アドバンストクラス P12-P13

選抜方法

各クラス別に、「競技」と「設計図(モデル)」の2つの要素で総合成績を決定します。

競技では、黒線で描かれたコースをトレースしながら自律走行しタイムを競います。コースにはゲーム課題や難所が指定されており、クリアするとボーナスタイムを得る事ができます。

大会前にモデル審査を行い、ソフトウェアの内容をモデルで正しく表現されているか、課題の有効な解き方を示すモデルになっているか等を審査します。

年間スケジュール

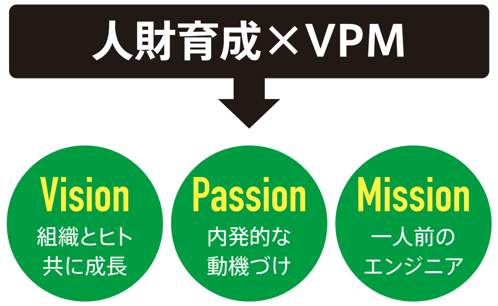
5～6月 技術教育	設計図の記載方法や競技に必要な内容を学びます
7～9月 競技練習・設計図提出	本番コースでの試走や設計図を作成します
9～10月 地区大会、エントリークラス大会	チャンピオンシップ大会進出チームは約40チームと狭き門
11月 チャンピオンシップ大会	全国の猛者から真の王者を決めます

キーワードはVPM

社会問題の一つとされる人手不足の中でも、ひときわ深刻なのがIT業界のエンジニア不足。政府の試算によると2020年には約31万人、2030年には約79万人もの人財が不足すると言われています。世界中におけるデジタル環境が加速化する中で、日本が遅れをとらないためにも、IT人財の育成は急務とされています。

しかし、実はもうひとつ切実な問題として浮上しているのが「人財の質」です。本当に必要とされるスキルや経験をもった人財がいない、だから企業は常に「人財不足」という問題です。では、この「人財の質」をどのように育てていけばいいのでしょうか?

ETロボコンにそのヒントが隠されています。



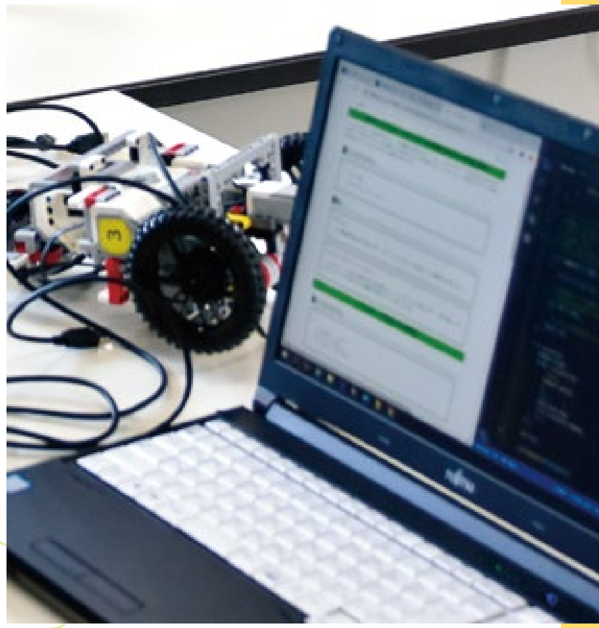
モデルはソフトウェアの「設計図」

ソフトウェアは建築やメカのように目に見えて触れられるものではありません。そのため、ソフトウェアを見える化し、レビューや事前検証、シミュレーションなどを通じて早く品質良く作り上げる必要があります。

モデルはソフトウェアを見える化する設計図です。ソフトウェアは、複雑だったり規模が大きいほどモデルが重要になります。また、多くのシステム開発の現場では、モデルが書ける人財を必要としています。

ETロボコンでは、モデルに重点を置き、参加チームにはモデルの提出を求めています。

提出されたモデルは「ソフトウェアの内容を正しく表現できているか」、「課題の有効な解き方を示すモデルになっているか」等の審査により、採点されます。



社会を支える
「組込みシステム」

「組込みシステム」とは、パソコンやタブレットのような一般的なコンピュータではなく、家電、自動車やオフィス機器、携帯電話など専用機器の制御等のために組み込まれた、特殊用途のコンピュータです。

人工衛星やドローンも、組込みシステムです。

昨今言われている IoT(インターネット・オブ・シングス)でいえば、「シングス(もの)」の働きを支えており、人手をかけず、故障せずに動き続けることが求められます。組込みシステム無しでは、私たちの現在の暮らしは成り立ちません。

2002年からスタート
ETロボコンの歴史

2002年に「UMLロボットコンテスト」として始まり、2005年から「ETロボコン」と名称を変更し、今年で24回目の開催となります。

沿革

2002年	UMLロボコンとして登場　走行体:RCX
2005年	ETロボコンに名称変更
2009年	走行体:RCX、NXT
2010年	走行体:NXT
2013年	アーキテクト部門新設 →新しいアイディアを披露するためのアーキテクト部門が登場 これまでの競技とは異なり、ライントレースはなし。チーム自身で進行しパフォーマンスを披露する形となる
2014年	デベロッパー部門アドバンストクラス新設 →デベロッパー部門を初級者向けと上級者向けの2クラスに分けた
2015年	走行体:NXT、EV3 イノベーター部門新設(アーキテクト部門は廃止)
2016年	走行体:EV3 アドバンストクラスで「カラーセンサー」を使って、 課題を攻略する難所が登場
2017年	ガレッジニア部門新設(イノベーター部門は廃止)
2018年	アドバンストクラスに「AI」を使って攻略する難所が登場
2019年	LコースとRコースをそれぞれ1回ずつ走行し、 それぞれのリザルトタイムのいずれか小さい方により 順位を決定する方式に変更
2020年	入門者向けのエントリークラス新設(ガレッジニア部門は廃止)全プログラムオンライン開催、シミュレータ競技会を実施
2021年	20周年を迎える。2020年同様、全プログラムオンライン開催、シミュレータ競技会を実施
2022年	3年ぶりにリアル会場での競技会を実施。 走行体:HackSPi(SPIKEプライム)登場
2023年	シミュレータ部門とフィジカル部門を設置。DXを推し進める人材を育成することを目標に掲げる。
2025年	新走行体:HackSPidachsにより、画像処理やネットワークなど、DX時代に必要な技術要素が加わった。

ETロボコンは
世界をリードするエンジニアを育成

ETロボコンは、5年後、10年後に世界をリードするエンジニアの育成を目指し、若手および初級エンジニア向けに、分析・設計モデリング開発にチャレンジする機会を提供しています。

業務での開発は、ほとんどの場合がすでに形になっているものに手を加えるだけの「保守作業」の場合が多いのですが、ETロボコンは、一から設計し、実装、テストという開発工程の一連の流れを、約半年で行うことになります。

学校でソフトウェア開発について勉強している人や、製造業やIT企業に就職した人など、これから"ものづくり"をしていく人がシステム開発の一連の流れを体験することができます。

「学びのトランスフォーメーション」を体感

新しい教育ロボットコンテスト

シミュレータでロボットを動かす

2019年度までは、リアル環境であるロボット(EV3)にプログラミングする開発環境が存在していましたが、シミュレータ用にプログラミングできる開発環境がありませんでした。そこで、2020年度から同じプログラムを両方の環境で開発できるようにしたのです。

ロボット(EV3)用に作ったプログラムをそのままシミュレータ上に持ってきて動かすことが可能になりました。

とはいえ、実機とシミュレータの両方で同じように動作させるには、地道な調整の繰り返しが必要でした。たとえば、「ロボットを10センチ前進させる」という単純な動作ひとつでも、実機のセンサ値や重量、コースの寸法などを正確に測定し、そのデータをシミュレータ上に再現する必要があります。シミュレータ上で実機と同じ動きができるか何度も検証し、シミュレータの動作を実機に近づけていきました。

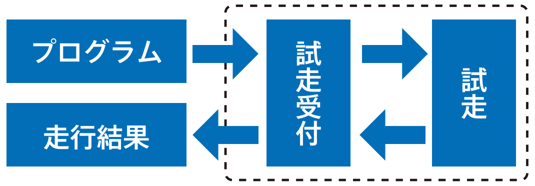
※シミュレータは、実機の動きを再現するための仮想環境であり、シミュレータ上で作成したプログラムがそのまま実機を動かすものではありません。

プログラム(ソフトウエア開発環境)

2つの環境で実行することが可能

シミュレータで練習(試走)する

練習する環境も大きく変わりました。まず、参加者には「練習用コース環境」を提供することで、自分の好きな時間に、好きな場所で練習ができるようになりました。次にエントリークラスの「本番用コース環境」(試走会)では、試走に必要な一連の作業を人の手を介さずに実行できる「自動試走会システム」を実行委員会が開発しました。これは、参加者とETロボコン実行委員会が試走会に必要な手間やコストを抑えることに大きく貢献しています。



プログラムを提出すると自動的に受付が行われしばらく待つと「走行結果」が返却される

リアルとシミュレータによる学びの提供

シミュレータという新しい技術が重要であることは過去5年の開催で認知されたと言っても過言ではありません。ただし、従来のコンテストで学ぶことができた「リアルの体験」も同じく重要だという意見を非常に多くいただきました。その理由は、組込み技術はシミュレータ上で完結することはなく、最終的には製品への落とし込みが不可欠であり、現実世界ならではの考慮すべき点も学んでほしいという、エンジニアの「飽くなき探求心」から生まれた意見でした。

ETロボコンでは、この「リアル競技」と「シミュレータ」を兼ねそろえたコンテストを実現しています。

現実世界では、最終的に製品への落とし込みが必要不可欠

リアル競技 × シミュレータ

更なる「学びの場」を提供する

2025年度ETロボコンの走行体

フィジカル部門のプライマリークラスとアドバンストクラスにおいては、2022年より利用し始めたHackSPiを使用し、シミュレータ部門のエントリークラスではHackEVの走行体を使用して競技を実施します。

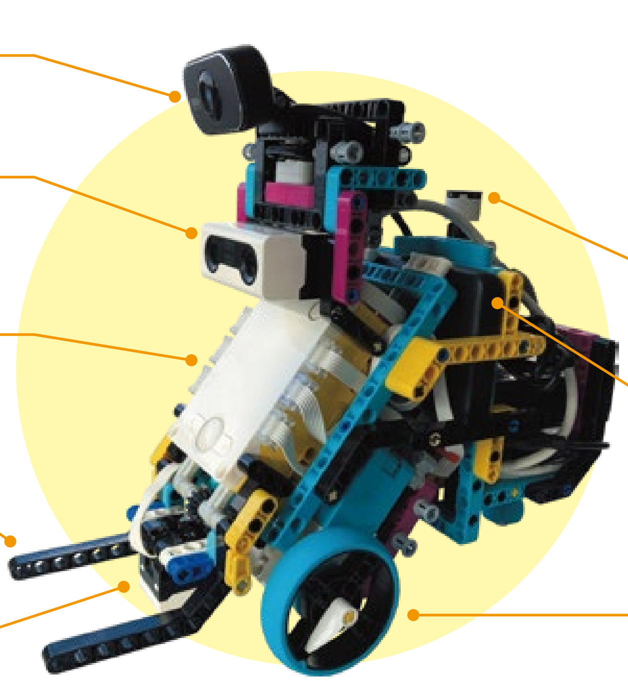
★HackSPi dachs

リアル環境

HackSPiは、レゴ® エデュケーション SPIKE™ プライムをベースに、Raspberry Pi 4を搭載した走行体です。

サイズ
全幅:約13cm
全長:約30cm
全高:約23cm
重さ:約1,100グラム

おおよそのサイズ感としては、ティッシュボックスを縦に2つ重ねたくらいで、重さは1Lペットボトル1本程度です。



USBカメラ
画像を取得します

距離センサ
走行体正面から対向する物体までの距離を取得します

SPIKEプライムラージハブ
内蔵しているジャイロセンサで走行体の回転挙動を取得します

アーム
PETボトルを持ったり動かすことができます

カラーセンサ
コース表面色を取得します

フォースセンサ
スタート操作に使います

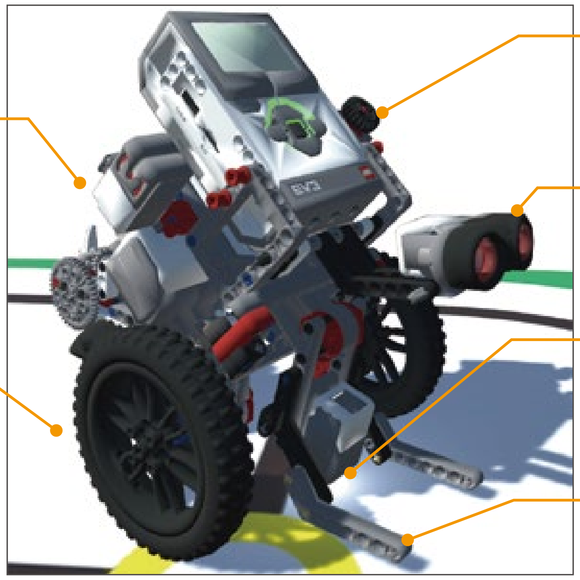
Raspberry Pi 4
走行体を制御するプログラムを実行します

車輪
二つの車輪で走行体を前後・左右に走行させます

★HackEV

シミュレータ環境

HackEVは、教育版レゴ® マインドストーム® EV3をベースに組み立てた走行体です。
外観はEV3ですが、SPIKEプライムを模擬します。



走行体の角速度取得
ジャイロセンサを模擬し、走行体の回転挙動を取得します

車輪(左右2つ)
二つの車輪で走行体を前後・左右に走行させます

タッチボタン
フォースセンサを模擬し、スタート操作に使います

対向物体までの距離取得
距離センサを模擬し、走行体正面から対向する物体までの距離を取得します

コース表面色取得
カラーセンサを模擬し、コース面や近接しているオブジェクト表面の色を取得します

アーム
ブロックを持ったり、動かすのに使います

エントリークラス

これからソフトウェア開発に携わりたい方

シミュレータ部門

■ 参加対象者

これからソフトウェア開発に携わる人に、具体的な題材をとおして開発体験を提供するクラスです。

- ●プログラミングを学ぶ
- ●モデリングとは何かを知る
- ●プログラミングを教える
- ●ソフトウェアの開発を発注する

■ リザルトタイムの計算例

	走行タイム(秒)	走行ポイント	ボーナスポイント				リザルトタイム
			M	L	B	G	
例1	30.0	0	1	5	25	10	41.00
例2	18.0	12	1	5	2	-	20.00

走行ポイント= $max\left[MP-\left(\frac{t}{LT}\times MP\right),0\right]$

MP : 30
LT : 30
t : 走行タイム(単位:秒)

	ボーナスポイント
中間ゲート通過	1
LAPゲート通過(L)	5
LAPゲート接触(L)	-30
キャリーブロック移動(B)	1
スマートキャリー(ランディング)(B)	獲得したボーナスポイント分
ゴール(G)	4
ゴールエリア内停止(G)	6

■ 競技方法

黒線で描かれたコースをトレースしながら、自律走行してリザルトポイントを競います。Lコース、Rコースそれぞれ1回ずつ走行し、最も高いリザルトポイントがそのチームの競技結果となります。
(リザルトポイント = 走行ポイント + ボーナスポイント)

①LAPゲートまでのタイムが走行タイム

スタートラインからタッチセンサ押下とともにスタートし、中間ゲート、LAPゲートの順に通過します。走行タイムから走行ポイントを算出します。

②中間ゲート通過、LAPゲート通過、スマートキャリー、ゴール、ゴールエリア内停止でボーナスポイントを獲得

③走行ポイントにボーナスポイントを加算して、リザルトポイントを決定

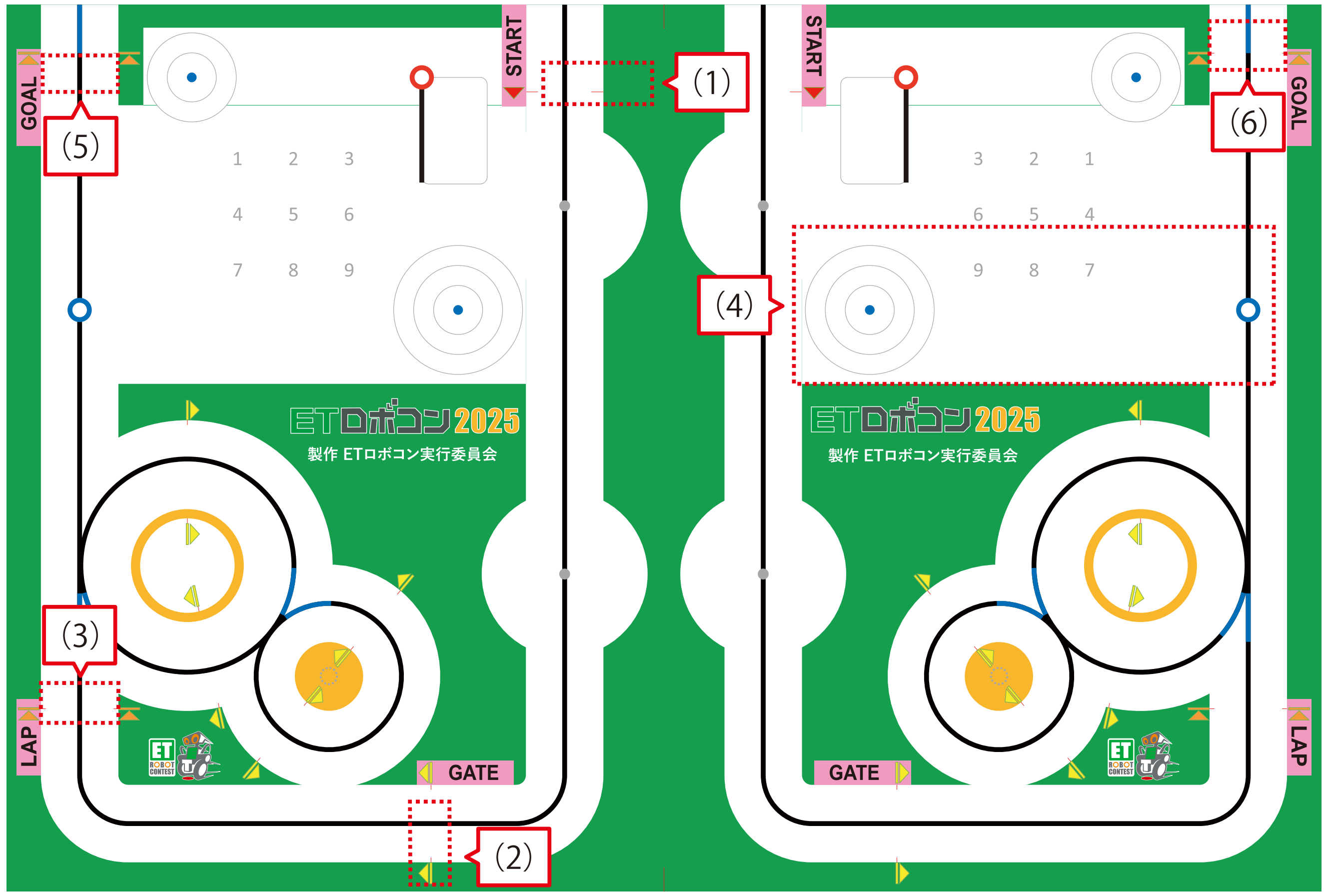
※LAPゲート到達成立前に、コースから落下したときは、走行タイムを120秒とします。
※120秒を経過した時点で、競技は終了となります。
※走行体がポールに接触した場合は、LAPゲート通過は獲得できず、LAPゲート接触の-30ポイントとなる。

コース

エントリークラスで使用するコースを下の図で説明します。

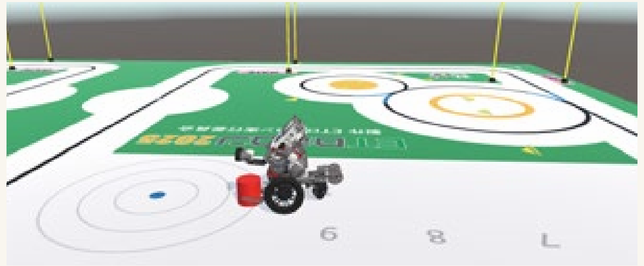
コースサイズ 約3,640mm×約5,460mm

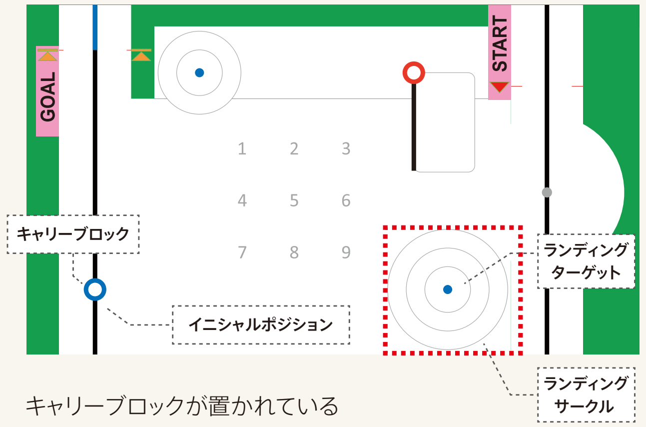
(1)スタートライン (2)中間ゲート (3)LAPゲート (4)スマートキャリー (5)ゴールライン (6)ゴールエリア



BONUS POINT! スマートキャリー

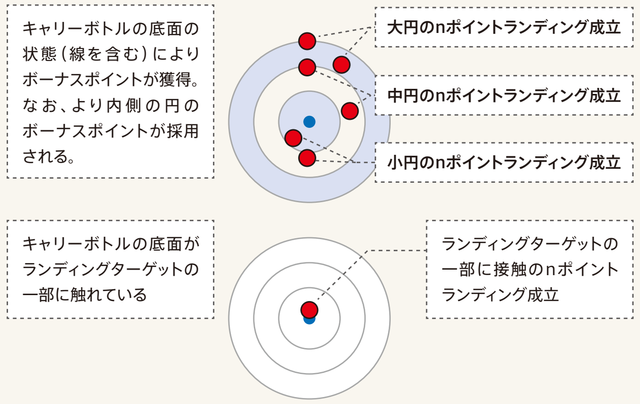
イニシャルポジションに置かれた キャリーブロックを
ランディングターゲットに運搬することで
ボーナスポイントを獲得することができます。
コース図(4)





キャリーブロックが置かれている
最も内側の円のボーナスポイントを獲得。
青色の中心点に接触できた場合は
ランディングターゲット一部接触となります。

nポイントランディング



nポイントランディング(いずれかが成立)	
nポイントランディング(大円)	4
nポイントランディング(中円)	8
nポイントランディング(小円)	12
ランディングターゲット一部接触	20

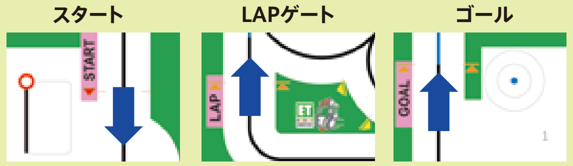
ETロボコン豆知識①

中間ゲートとその他のゲートの違い!

走行体は、スタートラインを通過した後、中間ゲートを通過し、LAPゲートを目指して走行します。

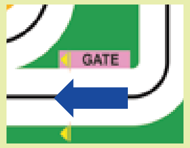
スタートライン、LAPゲート、ゴールライン

走行体の一部でもラインにかかれば通過と判定されます。LAPゲート通過成立後、ゴールラインを通過するとゴール成立のボーナスポイントが獲得できます。なお、LAPゲートを通過する際に該当ゲートの両端にあるポールと接触した場合は通過は成立しません。



中間ゲート

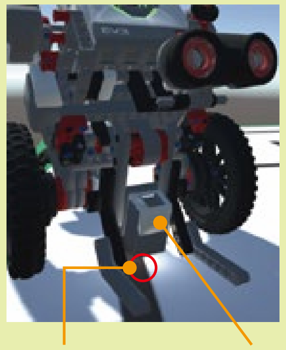
走行体の全体が矢印の示す方向にゲートラインを通過することで中間ゲート通過が成立し、ボーナスポイントを獲得することができます。ただし、通過する際に**該当ゲートの両端にあるポールと接触**した場合は**通過は成立しません**。



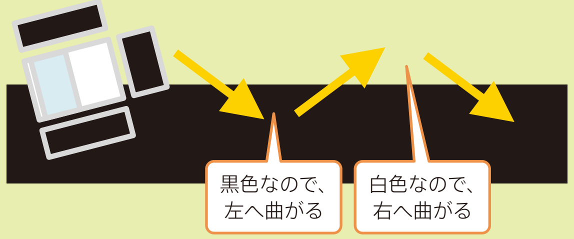
ETロボコン豆知識②

走行体はなぜ黒線に沿って走れるの?

走行体には、コースの表面色を取得することができるカラーセンサが搭載されています。このセンサによって、コース上の色を取得し、黒線上にいるのか、白色のエリアにいるのかが判別できます。



例えば、カラーセンサから取得した結果が白なら右に、黒なら左に走行体を曲げるように進めば、黒線の左側を沿って走らせることができます。カクカク進むチームもあれば、滑らかに進むチームもあるので見比べてみましょう!



プライマリークラス

技術の基礎を学び、スキルを磨く

■ 参加対象者

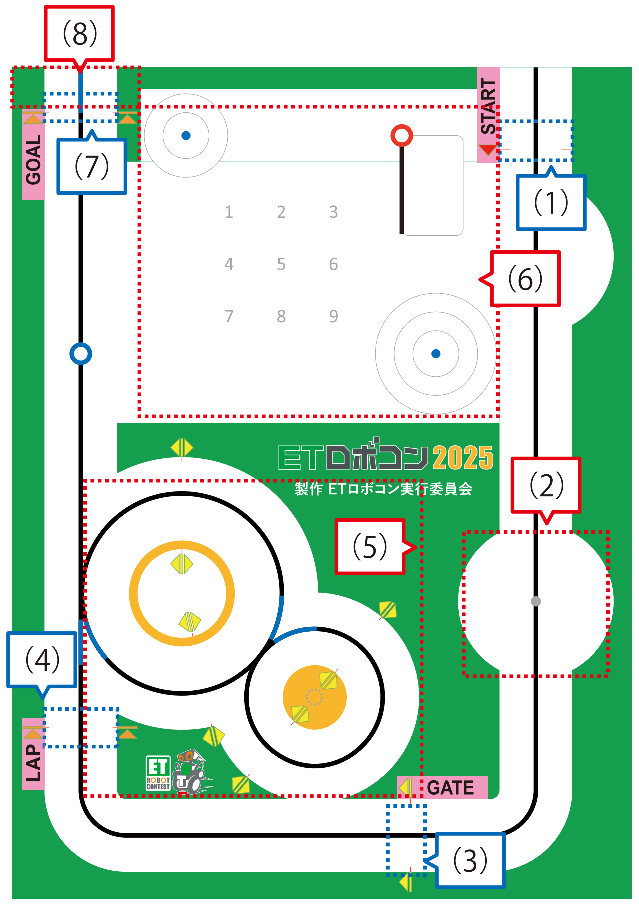
組み込みシステム開発・学習の初級者を対象とし、モデリングを用いたシステム開発技術の基礎を学びチャレンジする機会を提供するクラスです。

- ●モデリングの学習者で、具体的な題材への適用を通じてスキルを向上させたい人
- ●システム開発におけるモデリングの重要性について、具体的な題材を通じて理解し身につけたい人
- ●ETロボコン参加経験が過去3回未満であるモデリング学習者

コース

フィジカル部門では同じコースを使用しますが、競技内容の一部が異なります。
下の図では、プライマリークラスの説明となります。

コースサイズ 約3,640mm×約5,460mm



(1)スタートライン (2)ラインオブスタクル
(3)中間ゲート (4)LAPゲート
(5)ダブルループ (6)スマートキャリー
(7)ゴールライン (8)ゴールエリア

■ 競技方法

黒線で描かれたコースをトレースしながら、自立走行してリザルトポイントを競います。Lコース、Rコースそれぞれ1回ずつ走行し、最も高いリザルトポイントがそのチームの競技結果となります。

①走行タイムは、スタート合図からLAPゲート到達が成立するまでの時間を計測したもの

②走行タイムをもとに走行ポイントを算出

$$\text{走行ポイント}= max\left[MP-\left(\frac{t}{LT}\times MP\right), 0\right]$$

MP : 35
LT : 35
t : 走行タイム(単位:秒)

③③中間ゲート通過、LAPゲート通過、ダブルループ、スマートキャリー、ゴール、ゴールエリア内停止、でボーナスポイントを獲得

④走行ポイントとボーナスポイントを足して、リザルトポイントを決定

■ リザルトタイムの計算例

	走行ポイント	ボーナスポイント	リザルトポイント
例1	10ポイント	20ポイント	30ポイント
例2	0ポイント	32ポイント	32ポイント

※LAPゲート到達成立前に、コースから落下したときは、走行タイムを120秒とします。
※120秒を経過した時点で、競技は終了とします。
※ゴールラインを通過すると、ボーナスポイントとして5ポイント獲得できます。

■ 審査・総合評価

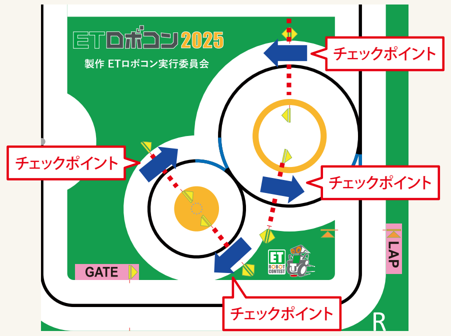
プライマリークラスの審査課題は、次のページで紹介する、2つの競技課題のうち1つの課題を選択し、攻略するために必要な内容を検討し、その結果をモデル内に記述することです。実行委員会内でそのモデルを審査基準と照らし合わせて評価し、各大会におけるランクを付与します。大会当日の競技成績と事前のモデル審査結果を基に、総合評価が行われ、総合順位を決定します。

カテゴリ	内容	項目	審査基準
表現	モデル内容の正しい・分かりやすい記載	正確性	採用した表記法に従っているか?
		理解性	理解を助けるためのモデルの概要が示されているか? モデルをわかり易く伝えることができているか?
機能実現	選択した競技課題を実現する構成・方法の記載	機能	選択した競技課題を実現するために、走行体に搭載する機能、および、それを実現するための仕様が記述されているか?
		構造	機能を実現するために必要な要素が記述されているか?
		振舞い	定義された要素を使って、どのように機能を実現するかがシーケンス図とステートマシン図の両方で適切に記述されているか?
		一貫性	機能、構造、振舞いの各項目で記述された内容が一貫しており矛盾はないか?
工夫点	選択した競技課題を実現するために、性能や信頼性を向上させる工夫	表現	検討された工夫点について、その必要性や効果の主張に十分な記述内容となっているか? 記述内容は論理的に展開されているか? 図、絵を効果的に用いているか?
		工夫点の効果	示されている工夫は性能、信頼性、安全性などの向上効果が期待できるか? 他チームにも有用か?

※審査規約より抜粋
※審査規約、競技規約はETロボコンホームページに公開しています。

BONUS POINT! ダブルループ

規定方向からチェックポイントのゲートラインを通過すると「チェックポイント通過」が成立します。ボーナスポイントは1本ごとに3ポイント獲得できます。

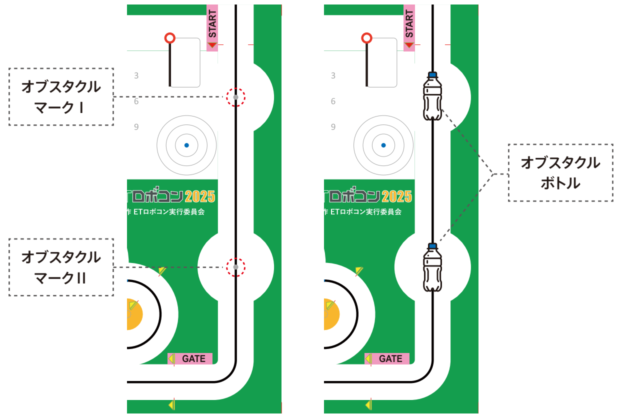


■ ボーナスポイント

成立	獲得ポイント	補足事項
チェックポイント通過	3ポイント/本	最大12ポイント

ラインオブスタクルに関して

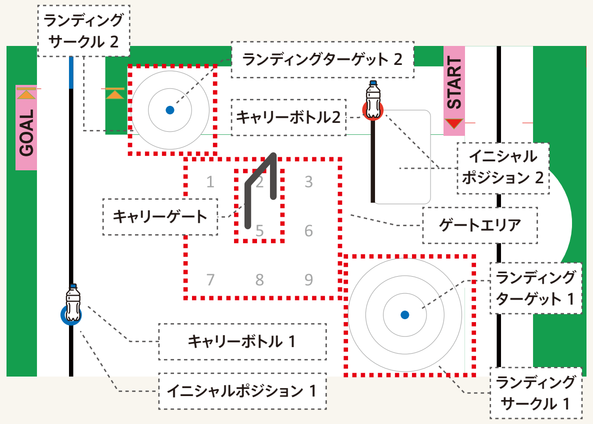
スタートゲートからLAPゲートに向かう間に、オブスタクルボトルが配置されます。
プライマリークラスでは、オブスタクルマーク2にのみオブスタクルボトルが配置されます。



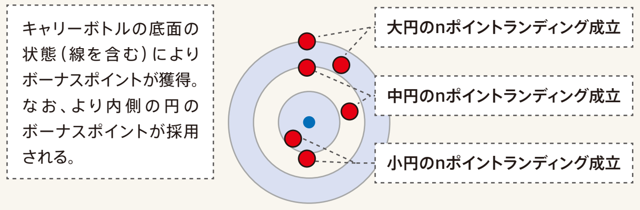
BONUS POINT! スマートキャリー

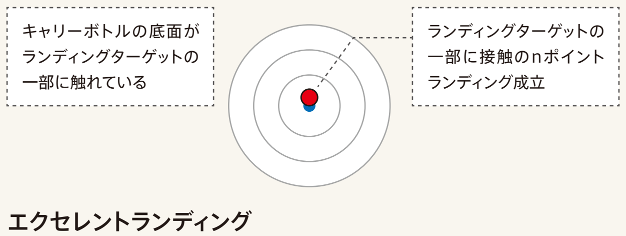
配置されたキャリーボトルをランディングターゲットにランディングさせるゲームです。
キャリーボトル1はランディングターゲット1に、キャリーボトル2は、ランディングターゲット2へランディングさせることでボーナスポイントを獲得することができます。
なお、それぞれのランディング時に、キャリーゲート※を通過させることで、更にボーナスポイントを獲得することができます。

※キャリーゲートの配置パターンは、地区大会当日の試走前に公開されます。CS大会では配置パターンが変更となる場合があります。

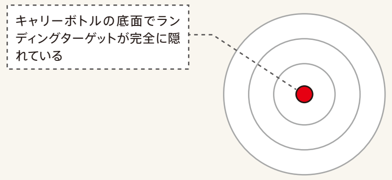


nポイントランディング





エクセレントランディング



■ ボーナスポイント

成立		獲得ポイント	補足事項
ランディングターゲット1		-	-
ランディング	nポイントランディング		いずれかが成立
	大円	1ポイント	
	中円	3ポイント	
	小円	5ポイント	
	ランディングターゲット1一部接触	8ポイント	
	エクセレントランディング	10ポイント	
スマートランディング		2ポイント	※1
キャリーゲート通過		3ポイント	
ランディングターゲット2		-	-
ランディング	nポイントランディング		いずれかが成立
	中円	2ポイント	
	小円	4ポイント	
	ランディングターゲット2一部接触	5ポイント	
	エクセレントランディング	8ポイント	
スマートランディング		2ポイント	※1
キャリーゲート通過		3ポイント	

※1ランディングでポイントがついた場合にのみ加算される。

アドバンストクラス

技術を応用できるスキルを磨く

■ 参加対象者

プライマリークラスの経験者及び組込みシステム開発における応用学習者を対象とし、より高度な開発課題へモデリング技術を応用できるスキルを磨く機会を提供するクラスです。

- ●複合システムや大規模システムの開発に対し、モデリング技術を応用するスキルを向上させたい人
- ●設計工程だけでなく、システム開発工程の幅広い範囲における様々なモデリング技術を身につけたい人

■ 審査・総合評価

アドバンストクラスの審査課題は、競技課題を攻略するために必要な内容を下表(カテゴリ)の観点で検討し、その結果をモデル内に記述することです。実行委員会内でそのモデルを評価し、各大会におけるランクを付与します。大会当日の競技成績と事前のモデル審査結果を基に、総合評価が行われ、総合順位を決定します。

カテゴリ	内容	項目	審査基準
要求	選択した課題に対する開発の目標と、それを達成するために必要な機能および機能に付随する品質や制約の検討	妥当性	選択した課題に対する開発の目標と、それを実現するために必要な機能、および機能に付随する品質や制約などの要求が十分に検討されているか? 品質の検討は複数の側面からなされているか?
		トレーサビリティ	記述内容が、段階的かつ適切な分解により追跡可能になっているか?
システム全体の分析	要求や制約に基づくシステム全体の構造および動作の分析	対象システムの分析と範囲定義	対象システムと外部の関係、対象システムを構成するサブシステム間の関係が示されているか?要求や制約に基づきサブシステムの役割と、それに従ったI/Fが定義されているか?
		サブシステムによる機能実現	定義したサブシステム間のI/Fに基づき、サブシステム間の振舞いにより重要なユースケースが実現される様子を示しているか? ユースケースの実現のため、サブシステムが自身の役割を満たす様子を示しているか?
設計	システム分析を元に要求を実現する各システムの構造と振舞いの設計	アーキテクチャ	要求やシステム分析結果から、サブシステムを設計する上で主要な検討すべき事項が抽出されているか? それに基づき、サブシステムの主なソフトウェアの構成要素とI/Fが定義されているか?定義したアーキテクチャにより、重要なユースケースが実現できるか?
		構造・振舞い	アーキテクチャを構成するソフトウェアの構造・振舞いが示されているか?
制御	要求で定義した品質を満たすための制御戦略と、その戦略で用いられる要素技術の検討	表現	検討された制御戦略と要素技術について、その必要性や効果の主張に十分な記述内容となっているか? 記述内容は論理的に展開されているか? 図、絵を効果的に用いているか?
		制御戦略	定義された要素技術を使って、必要な機能をどのように実現しているかが記述されているか?
		要素技術	必要な機能を実現する上で性能、信頼性、安全性などの向上効果が期待できるか?
総合	モデルの概要記載およびトレーサビリティ確保	概要	アブストラクトページにより、モデル全体の概要を適切に説明できているか?
		トレーサビリティ	要求・システム分析・各システムの設計は双方向に追跡可能か?

※審査規約より抜粋
※審査規約、競技規約はETロボコンホームページに公開しています。

■ 競技方法

黒線で描かれたコースをトレースしながら、自律走行してリザルトポイントを競います。Lコース、Rコースそれぞれ1回ずつ走行し、最も高いリザルトポイントがそのチームの競技結果となります。

①走行タイムは、スタート合図からLAPゲート到達が成立するまで時間を計測したもの

走行ポイント= $max\left[MP-\left(\frac{t}{LT}\times MP\right), 0\right]$
MP : 35
LT : 35
t : 走行タイム(単位:秒)

②走行タイムをもとに走行ポイントを算出

③中間ゲート通過、LAPゲート通過、ダブルループ、ロボコンスナップ、スマートキャリー、ゴール、ゴールエリア内停止でボーナスポイントを獲得

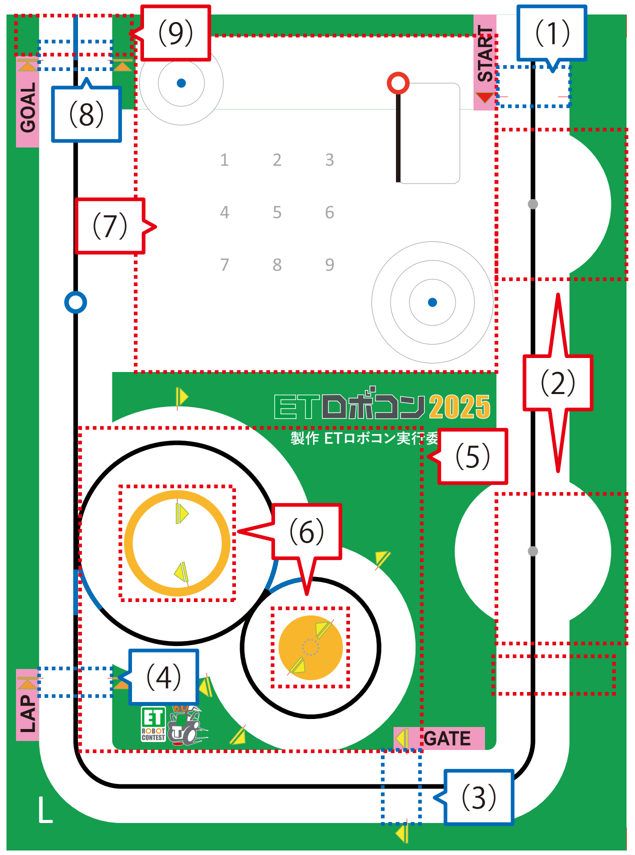
④走行ポイントとボーナスポイントを足して、リザルトポイントを決定

※ゴールゲート通過前にコースから落下したときは、走行タイムを120秒とします。
※120秒を経過した時点で、競技は終了します。
※「ラインオブスタクル」、「ダブルループ」、「スマートキャリー」は、プライマリークラスと共通ですが、難易度に関しては異なります。違いを次のページで説明します。

コース

フィジカル部門では同じコースを使用しますが、競技内容に違いがあります。下の図では、アドバンストクラスの説明となります。

コースサイズ 約3,640mm×約5,460mm

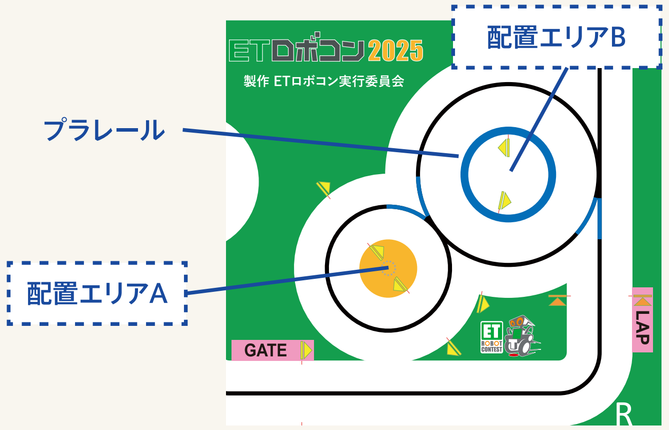


(1) スタートライン (2) ラインオブスタクル (3) 中間ゲート
(4) LAPゲート (5) ダブルループ (6) ロボコンスナップ
(7) スマートキャリー (8) ゴールライン (9) ゴールエリア

BONUS POINT! ロボコンスナップ

ロボコンスナップは、走行体で配置エリアに配置された人形(ミニフィグ)およびプラレールを撮影し、競技システムにアップロードすることでボーナスポイントを獲得することができます。

ロボコンスナップには、「オーケーショット」、「グッドショット」、「エクセレントショット」があり、各々の条件を満たしたときにボーナスポイントが与えられます。

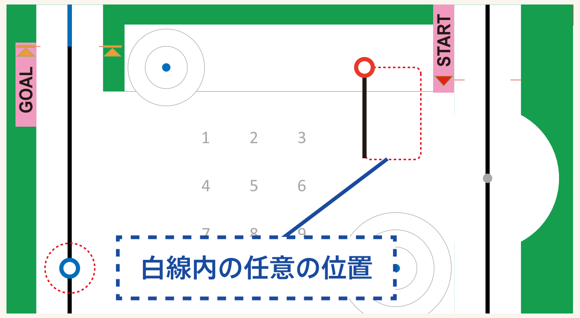


■ ボーナスポイント

撮影対象	成立	獲得ポイント	補足事項
ミニフィグ	オーケーショット	5ポイント	いずれかが成立
	グッドショット	10ポイント	
風景撮影	オーケーショット	2ポイント	いずれかが成立
	グッドショット	5ポイント	
プラレール撮影	オーケーショット	5ポイント	いずれかが成立
	グッドショット	10ポイント	
エクセレントショット		5ポイント	全てグッドショットの場合のみ加算される

BONUS POINT! スマートキャリー

アドバンストクラスにおけるスマートキャリーでは、キャリーボトル2のイニシャルポジションは、白枠内の任意の場所に設置されます。キャリーゲートの配置パターンは、競技のターン毎にスタート準備時に決定されます。CS大会では配置パターンが変更となる場合があります。



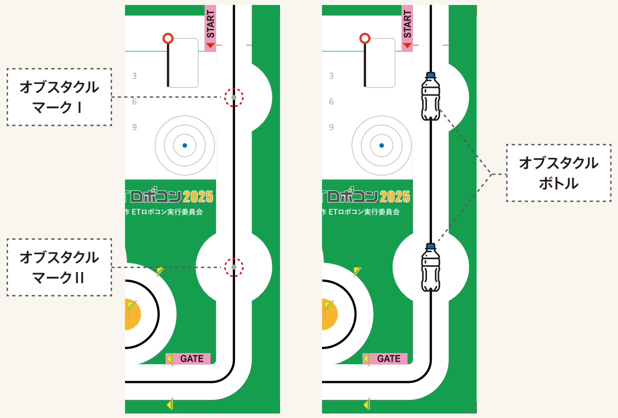
■ ボーナスポイント

	成立	獲得ポイント	補足事項
	ランディングターゲット1	-	
ランディング	nポイントランディング	-	いずれかが成立
	大円	1ポイント	
	中円	3ポイント	
	小円	5ポイント	
	ランディングターゲット1一部接触	8ポイント	
	エクセレントランディング	10ポイント	
	スマートランディング	3ポイント	※1
	キャリーゲート通過	3ポイント	
	ランディングターゲット2	-	
	キャリーボトル移動	2ポイント	
ランディング	nポイントランディング	-	いずれかが成立
	中円	4ポイント	
	小円	6ポイント	
	ランディングターゲット2一部接触	8ポイント	
	エクセレントランディング	10ポイント	
	スマートランディング	4ポイント	※1
	キャリーゲート通過	3ポイント	

※1 ランディングでポイントがついた場合にのみ加算される。

BONUS POINT! ラインオブスタクル

アドバンストクラスにおけるラインオブスタクルでは、オブスタクルマーク1およびオブスタクルマーク2にオブスタクルボトルをそれぞれ設置します。



sponsor's information

富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
富士フイルムグループパーパス
地球上の笑顔の回数を増やしていく。
わたしたちは、多様な「人・知恵・技術」の融合と独創的な発想のもと、
様々なステークホルダーと共にイノベーションを生み出し、世界をひとつずつ変えていきます。
FUJIFILM
Value from Innovation
INTERN SHIP
ET ROBO
> Plism

ACCRETECH
トーセーシステムズ
豊かな未来社会の創造を
ソフトウェア技術で
株式会社トーセーシステムズ
https://toseisystems.accretech.com/

ソフトウェア開発と
情報セキュリティの CIC
「顧客の信頼」
「社員の人間性尊重」
「社会への貢献」
CIC
https://www.cichdgroup.com/

「システナの車載開発」は
モバイルと
モビリティの
クロステック
株式会社システナ　東京都港区海岸1丁目2番20号　汐留ビルディング 14F・16F
systena

共に想い、共に創る。
Canon
キヤノンITソリューションズ株式会社
組込みソフトウエア開発で、
お客さまの「ものづくり」を実現する
最適なソリューションを提供します

モビリティの未来を、共に創る。
あるぞ、
ITの可能性。
SCSK
SCSK株式会社 モビリティ事業グループ
東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント

デジタル社会をリードする

EXEO Digital Solutions

“つなぐ力”で創れ、
未来の“あたりまえ”を。

Frontier Spirit

共に、未だ見ぬ世界へ

デジタルの力で社会をつなぐ

価値共創パートナー 共に、次のステージへ。 LINCREA

株式会社リンクレア

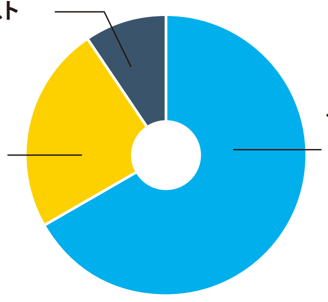
[本社・品川オフィス]〒108-0075 東京都港区港南2丁目16番3号品川グランドセントラルタワー
TEL：03-6821-5111（代） URL：https://www.lincrea.co.jp/
[拠点] 名古屋オフィス・関西オフィス・九州オフィス・表参道 Base

ETロボコン2025

参加チーム情報　全10地区
全193チーム

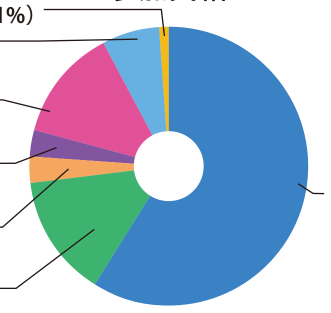
参加クラス

チーム数（全体の割合）



参加資格

チーム数（全体の割合）



	全国	北海道	東北	東京・北関東	南関東	東海	関西・北陸	中四国	九州北	九州南	沖縄
企業	114	3	3	37	26	11	24	4	5	0	1
大学	27	3	5	3	4	2	1	1	3	1	4
短大	6	0	1	1	0	1	0	1	0	0	2
専門	25	2	9	3	2	2	3	1	1	2	0
高専	6	0	2	0	0	0	0	2	0	2	0
高校	13	0	0	0	0	5	1	1	4	0	2
個人	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
合計	193	8	20	45	32	22	29	10	13	5	9

北海道	8	東京都	26	滋賀県	0	香川県	1
青森県	9	神奈川県	32	京都府	4	愛媛県	1
岩手県	7	新潟県	1	大阪府	17	高知県	0
宮城県	2	富山県	0	兵庫県	7	福岡県	10
秋田県	2	石川県	0	奈良県	0	佐賀県	0
山形県	0	福井県	0	和歌山県	1	長崎県	3
福島県	0	山梨県	0	鳥取県	0	熊本県	0
茨城県	2	長野県	2	島根県	1	大分県	0
栃木県	2	岐阜県	0	岡山県	1	宮崎県	3
群馬県	1	静岡県	6	広島県	4	鹿児島県	2
埼玉県	10	愛知県	15	山口県	2	沖縄県	9
千葉県	1	三重県	1	徳島県	0	海　外	0
						合　計	193

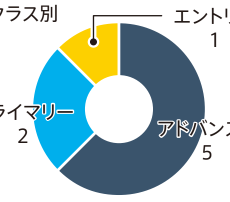
北海道地区

地区ゴールドスポンサー　マイナビ 株式会社マイナビEdge
地区ブロンズスポンサー　RICOH リコーITソリューションズ株式会社

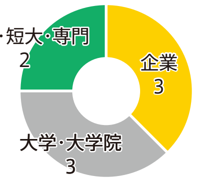
地区大会開催日
9/21 日

エントリークラス大会開催日
10/19 日

■クラス別



■カテゴリー別



2025年は初めての札幌開催

しかも…全国制覇を成し遂げた伝説のチームChampagne Fight を生んだ、リコーITソリューションズが会場です。JR札幌駅徒歩3分のすぐ近くですので、多くの方々の来場と応援をお願いいたします。

会場：札幌市北区北7条西4丁目
日本生命 札幌北口ビル

2025年の主な活動

5月17日(土)	技術教育１＋フォロー会
6月14日(土)	技術教育２＋フォロー会
7月　5日(土)	OSC Hokkaido ブース出展
7月12日(土)	試走会１＋モデル相談会
9月　6日(日)	試走会２

2024年地区大会の記念写真
会場：公立はこだて未来大学[函館市]

東北地区

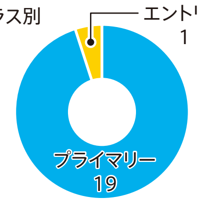
青森・岩手・宮城・
秋田・山形・福島

地区ゴールドスポンサー　マイナビ 株式会社マイナビEdge　NSCS　ALPSALPINE アルプスアルパイン株式会社
地区ブロンズスポンサー　ERI 株式会社イーアールアイ Embedded Resource Integration, Inc.

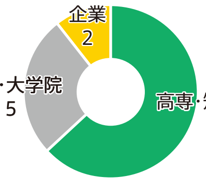
地区大会開催日
9/20 土

エントリークラス大会開催日
10/19 日

■クラス別



■カテゴリー別



今年もいわて県民情報交流センター7階「アイーナホール」で東北地区大会が開催されます。
地区として18年目を迎える今年は、計20チームが参加します。各チームCS大会を目指し、東北地区大会に臨みます。
今年も応援よろしくお願いします。

2025年の主な地区活動

5/24(土)技術教育１
6/21(土)技術教育２
7/19(土)試走会１
8/23(土)試走会２
9/　6(土)地区独自試走会(南東北)
9/13(土)地区独自試走会(北東北)

東京・北関東地区

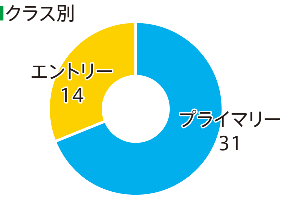
茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・新潟・山梨・長野

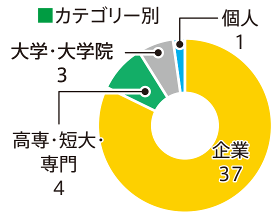
地区大会開催日

9/14 日

エントリークラス大会開催日

10/19 日





地区ブロンズスポンサー　PANDUIT　PROJECT

2025年9月14日（日）　ETロボコン東京・北関東地区　ロボコンタイムズ

号外 秋の陣開催

強者どもの戦いが始まる

モデル図に注がれる真剣な眼差し

間もなく競技が始まります

▲ETロボコン東京・北関東地区実行委員メンバのみなさん　一緒に活動する仲間を募集してます！黄色いTシャツを着て、盛り上げませんか？！

熱い走りを待ってます

東京・北関東地区から全国制覇するチームが出てくることを期待しつつ、この活動を通じて、エンジニアに必要なモノを持ち帰ってもらえればと思います

▲宮川芳之実行委員長

東海地区

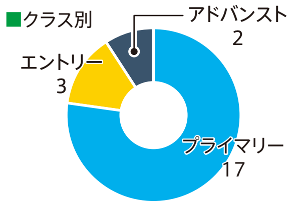
岐阜・静岡・愛知・三重

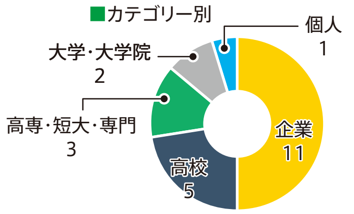
地区大会開催日

10/4 土

エントリークラス大会開催日

10/19 日





地区ゴールドスポンサー　FUJI　KOWAMEX 株式会社コーワメックス

東海地区参加チームの皆様　8月3日 浜松職業能力開発短期大学校にて

南関東地区

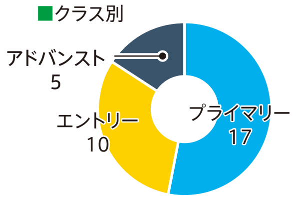
神奈川

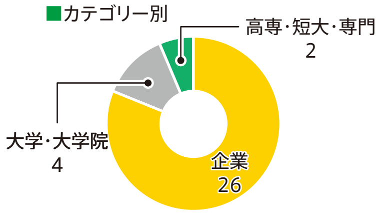
地区大会開催日

9/28 日

エントリークラス大会開催日

10/19 日





地区ゴールドスポンサー　CEC 株式会社シーイーシー Computer Engineering & Consulting　ZUKEN The Partner For Success　地区ブロンズスポンサー　神奈川工科大学 KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

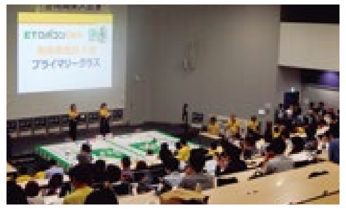
ETロボコンは、ソフト開発をゼロから学べる学習環境を提供します。競技規約を要求とするロボット開発の実践は、AI時代にもコンピュータ利用のコアとなる技術であり、人を中心としたコンピュータ技術の進化発展の礎にもなります。競技目標の達成に向け、参加者同士の交流も楽しみましょう！

南関東地区大会実行委員長　杉浦英樹

南関東地区は、独自イベントがたくさん。他地区の方も参加できるものがあります。

南関東独自イベント

- はじめての技術教育
- モデル事例研究会
- モデリングスペシャルセミナー
- ビーチフラッグレース



昨年まで地区大会特別イベントとして開催していたゼロヨン最速王決定戦は，今年，ビーチフラッグレースとして生まれ変わります！

関西・北陸地区

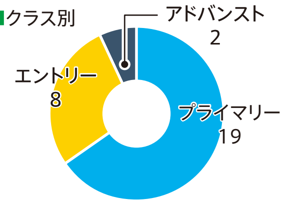
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山

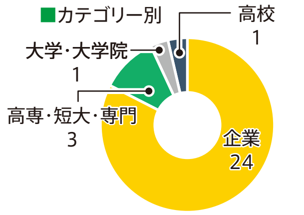
地区大会開催日

9/13 土

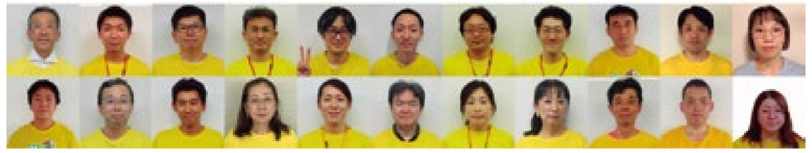
エントリークラス大会開催日

10/19 日





地区ゴールドスポンサー　NDS 株式会社大阪エヌデーエス　地区シルバースポンサー　FUJITSU 株式会社富士通ラーニングメディア



※パンフレット掲載に賛同いただき、写真を提出していただいたチームだけ掲載しています。

中四国地区

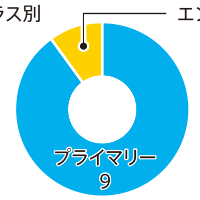
鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知

地区ゴールドスポンサー　ひろしま自動車産学官連携推進会議

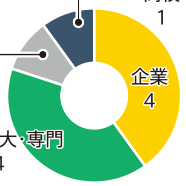
地区大会開催日
9/14 日

エントリークラス大会開催日
10/19 日

■クラス別



■カテゴリー別



2025年度の地区活動

05.25(土)　春の独自勉強会＆技術教育1フォロー会
06.14(土)　技術教育2フォロー会
07.05(土)　夏の独自勉強会
07.26(土)　試走会1
08.23(土)　試走会2

夏の独自勉強会の様子

中四国地区は、中四国の「へそ」備後福山の福山城本丸（福山駅前徒歩一分）を中心に、業種や世代を超えた縦横の交流を通じて思考力をUPさせようと活動し、今年で15年目になります。
2011年のスタートからこれまで学生チームの参加が多い地区で、企業チームにも負けない結果を出しています。各チームCS大会を目指し、万全の準備で大会に臨みます。
皆様の応援よろしくお願いいたします。

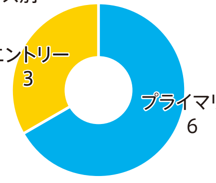
沖縄地区

地区ゴールドスポンサー　株式会社 ヴィッツ沖縄

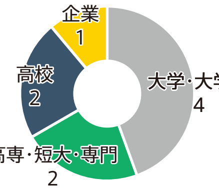
地区大会開催日
9/27 土

エントリークラス大会開催日
10/19 日

■クラス別



■カテゴリー別



泡盛エンジンやで！
(株)ヴィッツ沖縄

スーパーロジスティクス
沖縄職業能力開発大学校物流情報科

私と技術とロボッと
沖縄県立美来工科高等学校ITシステム科

Yish
沖縄県立美来工科高等学校ITシステム科

ie-Ryukyu
琉球大学工学部知能情報コース／SCSK(株)

沖ボリTech
沖縄職業能力開発大学校 電子情報技術科

琉球大学ロボットサークル
琉球大学

オキダイ
沖縄大学

沖国ロボロボ
沖縄国際大学 産業情報学部産業情報学科

九州北・九州南地区

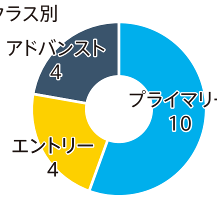
福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島

地区ゴールドスポンサー　マイナビ 株式会社マイナビEdge　地区ブロンズスポンサー　SRC

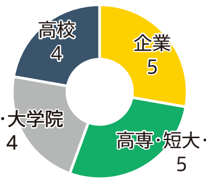
地区大会開催日
9/21 日

エントリークラス大会開催日
10/19 日

■クラス別



■カテゴリー別



2025年度九州地区（九州北・九州南地区合同）は全18チームです. 学生チームが多い地区ですが、今年は企業含めて新規参加も多く、好成績を目指し、設計にプログラムに英知を込めていますのでことしも九州地区への応援よろしくお願いします.

【参加チームMAP】

2024年九州北地区・南地区大会・競技

ETロボコンに参加しませんか？

ETロボコンは新しい技術に必要不可欠なプログラミング、設計技法（モデリング）、チーム開発で必要なコミュニケーションやチームビルディング、プロジェクトマネージメントを学べる機会を提供し、参加者と所属組織（企業、教育機関）の両者が「やりがい」と「成長」を実感できる、世界的にも珍しいソフトウェア重視の教育コンテストです。来年度の人財育成に向けてそろそろ準備を始めませんか。

■参加資格：高校生以上

■チーム編成：2人以上のチーム参加

■想定参加者：

企業におけるソフトウェア開発技術教育としての参加
ソフトウェアエンジニア個人またはエンジニア同士での技術力向上へのチャレンジ
大学におけるソフトウェア・エンジニアリング教育としての参加
高校、高専、専門学校等における、コンピュータ、ソフトウェア技術教育としての参加
ETロボコンの実践により人材育成を推進しようとする行政、公共団体
参加実践をETロボコンの取材機会とするメディア

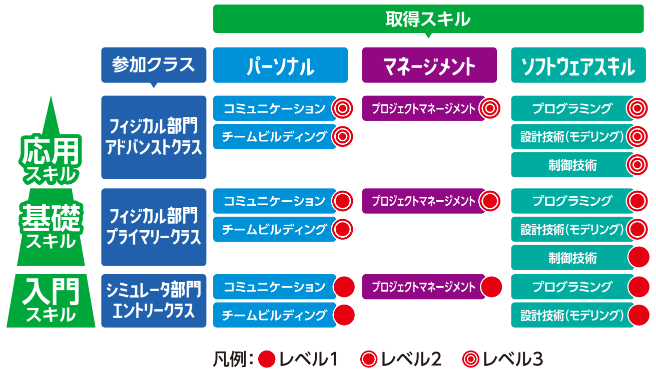
■参加費（税込）：

企業	132,000円
大学、短大、専門、高専、個人	52,800円
短大（2年制以下の学科）、専門（2年制以下の学科）、高専（本科）、高校	26,400円

＼詳しくはこちら／

学業や仕事だけでは得ることができない
「成功体験」を体感

ETロボコンスキルマップ



ETロボコン2025 参加チーム一覧 全193チーム

参加クラス　E…エントリークラス　P…プライマリークラス　A…アドバンストクラス

チームID	チーム名	参加クラス	参加資格	所属	参加地区	地域
1	ガーベラ	P	高校	デンソー工業学園	東海	愛知県安城市
2	べにだま	P	高校	デンソー工業学園	東海	愛知県安城市
3	青大ロボコン研S	E	大学	青森大学ソフトウェア情報学部	東北	青森県青森市
4	Jロボ	A	企業	日本ウェブサービス株式会社	関西・北陸	大阪府北区
5	SY002	P	企業	株式会社ユタカ電子	東海	愛知県津島市
6	ABC25	P	専門	秋田コアビジネスカレッジ 高度情報システム科 ITスペシャリストコース	東北	秋田県秋田市
7	Globalwayチーム	P	企業	株式会社グローバルウェイ	東京・北関東	東京都渋谷区
8	ISC_KT×トーセーシステムズ	A	専門	学校法人 岩崎学園 情報科学専門学校／株式会社トーセーシステムズ	南関東	神奈川県横浜市
9	emTechsTars☆'25	P	企業	株式会社エンテックス	東京・北関東	東京都千代田区
10	ミナミヤマRC	P	大学	南山大学／日本システム開発株式会社	東海	愛知県名古屋市
11	もず	P	企業	コマツ ICTシステム開発/FA開発センタ	南関東	神奈川県平塚市
12	ＴＳＳ名古屋	P	企業	東京システムズ株式会社 名古屋事業所	東海	愛知県名古屋市
13	星窮列車乗組員	P	専門	学校法人ＳＫＫ S.K.K.情報ビジネス専門学校	東北	青森県弘前市
14	フライングターキー	P	専門	学校法人ＳＫＫ S.K.K.情報ビジネス専門学校	東北	青森県弘前市
15	ＩＴ人工脳筋ＡＮＳ	P	専門	学校法人ＳＫＫ S.K.K.情報ビジネス専門学校	東北	青森県弘前市
16	浪岡厩舎	P	専門	学校法人ＳＫＫ S.K.K.情報ビジネス専門学校	東北	青森県弘前市
17	Pathfinder	P	専門	学校法人ＳＫＫ S.K.K.情報ビジネス専門学校	東北	青森県弘前市
18	湘南クリエイターズ	P	企業	コマツ ICTシステム開発/FA開発/DI開発センタ	南関東	神奈川県平塚市
19	チームEYES	P	企業	株式会社アイズ・ソフトウェア	東海	静岡県沼津市
20	HASEGAWA Soft Racers	E	企業	長谷川電機工業株式会社	関西・北陸	兵庫県尼崎市
21	ベンチウォーマーズ	P	企業	コマツ ICTシステム開発/電動化開発/FA開発センタ	南関東	神奈川県平塚市
22	てなろぼ★ぷらいまりぃ	P	企業	株式会社システナ 大阪支社 ロボット制御WG	中四国	愛媛県松山市
23	てなろぼ★いど♪	A	企業	株式会社システナ 大阪支社 ロボット制御WG	関西・北陸	大阪府大阪市
24	FUNCUSHIONZ	P	企業	株式会社コーワメックス	東海	愛知県名古屋市
25	LIXIL名張	E	企業	株式会社LIXIL 名張工場 ドア製造課 工機保全係	東海	三重県名張市
26	PSDGs Youth	P	企業	パナソニック システムデザイン株式会社	九州北	福岡県福岡市
27	ＴＳＳ＿ＮＵＭＡＺＵ	P	企業	東京システムズ株式会社 沼津事業所	東海	静岡県沼津市
28	HERCULES	P	企業	TDIプロダクトソリューション株式会社	南関東	神奈川県横浜市
29	うずまき	E	個人	個人／株式会社アフレル	東京・北関東	東京都渋谷区
30	ぺるそなふぁーすと	P	企業	株式会社データープロセスサービス	南関東	神奈川県川崎市
31	ヒット＆ラン	P	大学	八戸工業大学　工学部	東北	青森県八戸市
32	ジョリーデベロッパーズ	P	個人	個人	東海	愛知県蒲郡市
33	STEMASK	P	高校	愛知県立愛知総合工科高等学校	東海	愛知県名古屋市
34	チームソーバル	P	企業	ソーバル株式会社	東京・北関東	東京都品川区
35	北都ルナリス	P	企業	北都システム株式会社	北海道	北海道札幌市
36	東京システムズ盛岡	P	企業	東京システムズ株式会社・盛岡事業所	東北	岩手県盛岡市
37	まいど☆おーきに	P	企業	株式会社大阪エヌデーエス	関西・北陸	大阪府大阪市
38	SOROT☆SCSKQ	A	企業	SCSK九州株式会社	九州北	福岡県福岡市
39	HELIOS	A	企業	株式会社アドヴィックス	東海	愛知県刈谷市
40	日立建機ヌシ組	P	企業	日立建機株式会社	東京・北関東	茨城県土浦市
41	アニマートAJS―RCT	P	企業	ＡＪＳ株式会社	東京・北関東	東京都新宿区
42	コードマッシャーズ	E	企業	バルトソフトウェア株式会社	関西・北陸	和歌山県和歌山市
43	チワワ	P	企業	株式会社エクスモーション	東京・北関東	東京都品川区
46	図研2025 チームA	E	企業	株式会社図研	南関東	神奈川県横浜市
47	図研2025 チームB	E	企業	株式会社図研	南関東	神奈川県横浜市
48	図研2025 チームC	E	企業	株式会社図研	南関東	神奈川県横浜市
49	エンベザウルス	P	企業	エクシオ・デジタルソリューションズ株式会社	東京・北関東	東京都港区
50	チームＴｉＣ	P	企業	株式会社ティー・アイ・シー	東京・北関東	埼玉県越谷市
51	浜ポリ	P	短大	浜松職業能力開発短期大学校・電子情報技術科	東海	静岡県浜松市
52	Plus-T	P	企業	株式会社てつでん 技術本部	関西・北陸	大阪府豊中市
53	Base-T	E	企業	株式会社てつでん 技術本部	関西・北陸	大阪府豊中市
54	StepLight	P	企業	株式会社ステップワン	関西・北陸	兵庫県神戸市
55	AISAN　FUTURE	P	企業	愛三工業株式会社	東海	愛知県大府市
56	RoboSight	P	企業	フォーサイトシステム株式会社	九州北	福岡県福岡市
57	ISC_hant×トーセーシステムズ	A	専門	学校法人 岩崎学園 情報科学専門学校	南関東	神奈川県横浜市
58	&-Rabbi2	P	大学	群馬大学情報学部情報学科／株式会社トーセーシステムズ	東京・北関東	群馬県前橋市
59	ニコロボ	A	専門	日本工学院北海道専門学校 ITスペシャリスト科	北海道	北海道登別市
60	学園ドカガチハッピーズ	A	専門	日本工学院北海道専門学校情報処理科	北海道	北海道登別市
61	赤いバケツ17箱目	P	大学	北海道情報大学	北海道	北海道江別市
62	野菜食べ隊	P	大学	東北学院大学・情報学部・データサイエンス学科／アルプスアルパイン株式会社	東北	宮城県仙台市
63	東海道デッドロック	P	企業	株式会社オージス総研	関西・北陸	大阪府大阪市
64	鴨ノ橋	P	専門	京都府立京都高等技術専門校 システム設計科	関西・北陸	京都府京都市
65	カモガワ・ボンバーズ	P	専門	京都府立京都高等技術専門校 システム設計科	関西・北陸	京都府京都市
66	信大MDSElab	P	大学	信州大学工学部電子情報システム工学科小形研究室／セイコーエプソン株式会社	東京・北関東	長野県長野市
67	千鳥足	P	企業	株式会社コア 関西カンパニー	関西・北陸	大阪府大阪市
68	塩辛ーズ	A	大学	公立はこだて未来大学/株式会社マイナビEdge	北海道	北海道函館市
69	ミニマU.C.	P	高専	宇部工業高等専門学校ETロボコン同好会／TDCソフト株式会社	中四国	山口県宇部市
70	J-Tech team.OK_Discovery	P	企業	株式会社ジェイテック 岡山オフィス	中四国	岡山県岡山市
71	新風ＮＥＯ	A	企業	株式会社ネオ	東海	愛知県名古屋市
72	G-MEN	P	専門	MCL盛岡情報ビジネスデザイン専門学校 総合システム工学科	東北	岩手県盛岡市
73	WASD	P	専門	MCL盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 高度情報工学科／株式会社NS・コンピュータサービス	東北	岩手県盛岡市
74	risobot-v4	P	企業	理想科学工業株式会社	東京・北関東	茨城県つくば市
75	ELBD Soft Design Youth	P	企業	パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社	関西・北陸	大阪府門真市
76	CORE RUN	E	企業	株式会社アジルコア	東京・北関東	東京都渋谷区
77	チームODM	E	高校	盈進中学高等学校	中四国	広島県福山市
78	MSEスピードスター	P	企業	株式会社ＮＴＴデータＭＳＥ 西日本事業本部	関西・北陸	大阪府大阪市
79	TIIS-Mates	P	企業	豊田自動織機 ITソリューションズ	東海	愛知県刈谷市
80	MSEスピードスター２	E	企業	株式会社ＮＴＴデータＭＳＥ 西日本事業本部	関西・北陸	大阪府大阪市
81	ASOでGO	P	専門	麻生情報ビジネス専門学校 AI&IoT分野	九州北	福岡県博多区
82	めるこ丸	P	企業	三菱電機株式会社	南関東	神奈川県鎌倉市
83	ICTS初号機制作部	E	企業	株式会社SCREEN ICT ソフトウエア・応用制御システム部	関西・北陸	京都府京都市
84	KERT-B3	P	大学	九州産業大学 理工学部／株式会社マイナビEdge	九州北	福岡県福岡市
85	SELENE	A	大学	九州産業大学 理工学部	九州北	福岡県福岡市
86	泡盛エンジンやで!	P	企業	株式会社ヴィッツ沖縄	沖縄	沖縄県那覇市
87	EMS-N ロボコン部	P	企業	株式会社イーエムエス新潟	東京・北関東	新潟県新潟市
88	ＯＳＫ２０２５ー新人A	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
89	ＯＳＫ２０２５ー新人B	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
90	ＯＳＫ２０２５ー新人D	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
91	ＯＳＫ２０２５ー新人E	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
92	ちいコア	P	専門	出雲コアカレッジ	中四国	島根県出雲市
93	チームTCU	P	大学	東京都市大学	南関東	神奈川県横浜市
94	ＯＳＫ２０２５ー新人G	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
95	ＯＳＫ２０２５ー新人H	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
96	ＯＳＫ２０２５ー新人I	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
97	株式会社イーエムエス	P	企業	株式会社イーエムエス	東北	岩手県盛岡市
98	ネコヤナギ	E	高校	デンソー工業学園	東海	愛知県安城市
100	NiASET	A	大学	長崎総合科学大学	九州北	長崎県長崎市
101	ＭＳ＆ＡＤモード２Ｐ・Ａ	P	企業	ＭＳ＆ＡＤグループ（三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損保、ＭＳ＆ＡＤシステムズ）	東京・北関東	東京都新宿区
102	ＭＳ＆ＡＤモード２Ｐ・Ｂ	P	企業	ＭＳ＆ＡＤグループ（三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損保、ＭＳ＆ＡＤシステムズ）	東京・北関東	東京都新宿区
103	ＭＳ＆ＡＤモード２Ｐ・Ｃ	P	企業	ＭＳ＆ＡＤグループ（三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損保、ＭＳ＆ＡＤシステムズ）	東京・北関東	東京都新宿区
104	Verifier	P	企業	株式会社ベリサーブ モビリティ第八事業部	関西・北陸	大阪府大阪市
105	KAIT EDTC	P	大学	神奈川工科大学	南関東	神奈川県厚木市
106	スーパーロジスティクス	P	短大	沖縄職業能力開発大学校・物流情報科	沖縄	沖縄県沖縄県
107	Hi-ν-長工速	P	短大	長野県工科短期大学校 知能情報システム学科	東京・北関東	長野県上田市
108	MUO　FACTORY	E	専門	都城コアカレッジ ICTエンジニア科	九州南	宮崎県都城市
109	独り舞台	E	専門	都城コアカレッジ ICTエンジニア科	九州南	宮崎県都城市
110	3anGears	P	専門	静岡産業技術専門学校	東海	静岡県静岡市
111	NiAS science	P	高校	長崎総合科学大学附属高等学校・科学技術部	九州北	長崎県長崎市
112	計測制御講座ー70	P	大学	防衛大学校 機械工学科	南関東	神奈川県横須賀市
113	関東能開大電子情報技術科	P	大学	関東職業能力開発大学校電子情報技術科	東京・北関東	栃木県小山市
114	ETフィールド	P	高専	大島商船高等専門学校 電子機械工学科／ひろしま自動車産学官連携推進会議	中四国	山口県大島郡
115	NSW_MC60	E	企業	NSW株式会社・エンベデッドソリューション事業本部モビリティ事業部CASEシステム部	東京・北関東	東京都渋谷区
116	チームＡＩＴ	P	大学	愛知工業大学	東海	愛知県豊田市
117	KatLab	A	大学	宮崎大学／SCSK株式会社	九州南	宮崎県宮崎市
118	三代目こよこ屋	P	企業	株式会社シーイーシー	南関東	神奈川県座間市
119	ｔａｄａｉｍａ　Ｇ９	P	企業	情報技術開発株式会社	東京・北関東	東京都新宿区
120	Team：Genkai	P	企業	株式会社ゼネテック	東京・北関東	東京都新宿区
121	私と技術とロボッと	P	高校	沖縄県立美来工科高等学校 ITシステム科	沖縄	沖縄県沖縄市
122	Hawks&Sharks	P	企業	SCSKオートモーティブH&S株式会社 開発部	東京・北関東	東京都江東区
123	戦うファイターズ	P	企業	リコーITソリューションズ株式会社 秋田事業所	東北	秋田県秋田市
124	TK217	P	大学	関西大学総合情報学部総合情報学科	関西・北陸	大阪府高槻市
125	とりかわ	E	企業	株式会社CIC	南関東	神奈川県川崎市
126	Yish	E	高校	沖縄県立美来工科高等学校 ITシステム科	沖縄	沖縄県沖縄市
127	CIC_TRIBE	P	企業	株式会社CIC	南関東	神奈川県川崎市
128	ie-ryukyu	P	大学	琉球大学工学部工学科知能情報コース／SCSK株式会社	沖縄	沖縄県中頭郡
129	福山能開短大校2025号	P	短大	福山職業能力開発短期大学校／電子情報技術科	中四国	広島県福山市
130	72	P	企業	株式会社コア 中四国カンパニー	中四国	広島県広島市
131	ITS_car	A	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
132	1 byTe-Size Avengers	P	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
133	ITS MaaS Attack!	E	企業	パナソニックITS株式会社	北海道	北海道室蘭市
134	Integrate Tech & Soul	E	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
135	It's ☆ WITS	E	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
136	PRITS	E	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
137	SUMMITS	E	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
138	ITS爆走連合	E	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
139	Fits	E	企業	パナソニックITS株式会社	南関東	神奈川県横浜市
140	チーム・もの革	P	企業	パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社 現場・ものづくり革新本部	関西・北陸	大阪府門真市
141	チーム・ライティング	P	企業	パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社 ライティング事業部	関西・北陸	大阪府門真市
142	札幌ギアワークス	A	企業	リコーITソリューションズ株式会社	北海道	北海道札幌市
143	横浜に行くために	P	短大	岩手県立産業技術短期大学校	東北	岩手県紫波郡
144	Teamジスクソフト空	A	企業	ジスクソフト株式会社	南関東	神奈川県川崎市
145	Teamジスクソフト一心	P	企業	ジスクソフト株式会社	南関東	神奈川県川崎市
146	Python lovers	A	大学	室蘭工業大学 理工学部 システム理化学科	北海道	北海道室蘭市
147	ヒロコンロボットMkⅢ	P	企業	ヒロコン株式会社 開発部	中四国	広島県広島市
148	新松戸一丁目	P	企業	株式会社パトリオット	東京・北関東	千葉県松戸市
149	可不ェin	E	高校	長崎総合科学大学附属高等学校科学技術部	九州北	長崎県長崎市
150	PCSEIT2	P	大学	四国職業能力開発大学校	中四国	香川県丸亀市
151	沖ポリTech	P	短大	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄支部 沖縄職業能力開発大学校 電子情報技術科	沖縄	沖縄県沖縄市
152	AC130	P	企業	アンリツ株式会社	南関東	神奈川県厚木市
153	琉球大学ロボットサークル	P	大学	琉球大学	沖縄	沖縄県中頭郡
154	見本の森	P	企業	株式会社リンクレア	関西・北陸	東京都港区
155	LINQ若鷹軍団	P	企業	株式会社リンクレア	九州北	福岡県福岡市
156	ひたむきNewSE	P	企業	株式会社リンクレア	東京・北関東	東京都港区
157	しん・ちいはや	A	企業	富士フイルムビジネスイノベーション株式会社	南関東	神奈川県横浜市
158	たまりんくる	P	高専	鹿児島工業高等専門学校情報工学科	九州南	鹿児島県霧島市
159	オキダイ	E	大学	沖縄大学	沖縄	沖縄県那覇市
160	クレアロジック	P	企業	株式会社リンクレア	東海	愛知県名古屋市
161	Monolith	P	大学	岩手県立大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科	東北	岩手県滝沢市
162	電工部	P	高専	八戸工業高等専門学校・産業システム工学科	東北	青森県八戸市
163	キタコンドリームズ	P	専門	北上コンピュータ・アカデミー	東北	岩手県北上市
164	ISUcaffeinate	P	大学	石巻専修大学・理工学部・情報電子工学科／株式会社マイナビEdge	東北	宮城県石巻市
165	PE	P	大学	関東学院大学／東京計器株式会社	南関東	神奈川県横浜市
166	Q	P	高校	浜松学芸高等学校	東海	静岡県浜松市
167	日本工学院専門学校蒲田校	P	専門	日本工学院専門学校蒲田校	東京・北関東	東京都大田区
168	ぎょざりん☆彡ＣＩＴＳ	P	企業	キヤノンＩＴソリューションズ株式会社・エンベデッドシステム事業部	東京・北関東	栃木県宇都宮市
169	COMBINATIONS	P	企業	キヤノンＩＴソリューションズ株式会社・エンベデッドシステム事業部	南関東	神奈川県川崎市
170	超EMB☆宣伝部	P	企業	キヤノンＩＴソリューションズ株式会社・エンベデッドシステム事業部	南関東	神奈川県川崎市
171	中立starters	P	企業	株式会社日立ソリューションズ・テクノロジー	東京・北関東	東京都立川市
172	フレッシュパンダ	P	企業	株式会社日立ソリューションズ・テクノロジー	東京・北関東	東京都立川市
173	ちくちく突破	P	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	東京・北関東	東京都港区
174	TechnoSeekerSBS	P	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	関西・北陸	兵庫県神戸市
175	西工おくちゃん	P	高校	兵庫県立西脇工業高等学校	関西・北陸	兵庫県西脇市
176	TechnoSeeker	P	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	関西・北陸	兵庫県神戸市
177	ロボコミ6世	E	高校	福岡工業大学附属城東高等学校	九州北	福岡県東区
178	veryHappy	E	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	関西・北陸	大阪府大阪市
179	テクノぷりんティーポッド_4杯目	E	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	関西・北陸	京都府京都市
180	沖国ロボロボ	E	大学	沖縄国際大学産業情報学部産業情報学科	沖縄	沖縄県宜野湾市
181	FEC	P	企業	フィガロ技研株式会社	関西・北陸	大阪府箕面市
182	SKASH	E	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	東京・北関東	東京都港区
183	八戸スピリッツ	P	高専	八戸工業高等専門学校／株式会社NS・コンピュータサービス	東北	青森県八戸市
184	Ctrl+Z	E	企業	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	東京・北関東	東京都港区
185	僕とロボコン	P	高専	鹿児島工業高等専門学校	九州南	鹿児島県霧島市
186	猪名寺駅前徒歩１０分	P	企業	三菱電機ソフトウエア株式会社 通信機事業所	関西・北陸	兵庫県尼崎市
187	NAGOMIX	E	専門	静岡産業技術専門学校	東海	静岡県静岡市
188	Learn by Creation	E	専門	神戸電子専門学校	関西・北陸	兵庫県中央区
189	ＯＳＫ２０２５ー新人C	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
190	ＯＳＫ２０２５ー新人F	E	企業	株式会社ＯＫＩソフトウェア	東京・北関東	埼玉県蕨市
191	東京システムズ東京事業所	P	企業	東京システムズ株式会社 東京事業所	東京・北関東	東京都港区
192	九産MACHINE	P	高校	九州産業大学付属九州産業高等学校	九州北	福岡県筑紫野市
193	ﾆｼﾂｳ　ﾛﾎﾞｺﾝ	P	企業	株式会社システムニシツウ	九州北	福岡県福岡市
194	JECJY1	P	専門	日本電子専門学校	東京・北関東	東京都新宿区
195	jecjz1	E	専門	日本電子専門学校・高度情報処理科	東京・北関東	東京都新宿区
196	生成愛	P	企業	株式会社エクスモーション	東京・北関東	東京都品川区

ご挨拶

ETロボコン実行委員会
本部・実行委員長

株式会社ジェイテック
一般社団法人組込みシステム技術協会参与

星 光行

ETロボコンは今年で24年目を迎えました。全国9地区でリアル大会を開催し、初心者向けのエントリークラスは、実機を使わずに参加できるシミュレータ大会として実施します。

学生から社会人まで、幅広い年代や立場のチームが参加し、モデリングとソフトウェアの技術力を競う貴重な場となっています。

今年はスタート直後の直線コース上に設置された2本のペットボトルを避ける必要があります。また、アドバンストクラスでは、コース上の8の字ループ中央にあるミニフィグ(人形)とプラレールを撮影し、その画像をアップロードするとボーナスポイントが加算される難所があり、画像認識やネットワーク活用など、より高度な技術が求められます。

走行体はSPIKEとラズベリーパイを組み合わせたハイブリッド構成で、今年はタイヤが小さくなり、設計や制御にも新たな工夫が必要です。

ETロボコンは、チーム開発やモデリングスキルの向上を重視しており、企業の研修や学校教育でも高く評価されています。

優秀なチームは、11月にパシフィコ横浜で開催される「EdgeTech+展2025」と併催のチャンピオンシップ大会に出場し、日本一を目指して競います。

この活動を支えてくださるスポンサーの皆さまには、心より感謝申し上げます。スポンサーのご支援なくして、ETロボコンの大会運営は成り立ちません。

また、土日や祝日を返上して運営を支えてくださっている、全国300名を超えるボランティアの実行委員の皆さまにも、深く感謝いたします。

ETロボコン実行委員会
本部・審査委員長

ウーブン・バイ・トヨタ株式会社

高橋 寛之

現代社会を支える様々なシステムは、私たちの生活をより豊かに、より便利にしてくれます。システムに使われる技術の進化は目覚ましく、大規模化・複雑化の波は止まることを知りません。このような時代だからこそ、単に技術を追いかけるだけでなく、本質を見極め、複雑な課題を解きほぐす力が、私たちエンジニアには求められます。
ETロボコンが20年以上にわたり提供してきたのは、まさにこの「本質を見極める力」を養うモデリングという実践的な学びの場です。競技課題に対するアイデアをモデリングで可視化し、チームで共通認識を築きながら開発を進める過程は、未来の社会を支えるエンジニアに不可欠な思考力を育みます。
今年のETロボコンも、皆さんの学びのレベルに合わせた3つのクラスを用意しました。この挑戦を通じてモデリングを「使える武器」として身につけることで、エンジニアとしての可能性をさらに広げることができると確信しています。
複雑なシステム開発プロジェクトに携わるエンジニアとして、ETロボコンで得た知識と経験は、目指す未来への確かな一歩となるでしょう。モデリングを核とした学びが皆さんのキャリアを加速させ、社会に貢献する力を育むことを心から期待しています。ETロボコンへの挑戦が、皆さんのエンジニアとしての未来を輝かせる原動力となることを願っています。

ETロボコン実行委員会
本部・技術委員長

日本工学院北海道専門学校

引地 政征

本年度もETロボコンにご参加いただき、誠にありがとうございます。
今年のテーマ「見る未来、動かす力、極めろ探究心」のもと、全国各地から集う皆様と共に、技術を深め、挑戦を楽しむ機会を共有できることを大変嬉しく思います。
シミュレータ部門は、実機を使わずに参加できる形式で、基礎技術を学びながらロボット開発の楽しさを体験できる環境を提供しています。初学者の方にとっては、自らの力で「動かす」手応えを感じる絶好の機会です。この経験を通じて、次のステップであるフィジカル部門への挑戦にもつながることを期待しています。
フィジカル部門では、実機ならではの設計・実装・制御が求められます。今年度は、走行ライン上の障害物回避やゲート認識と通過といった課題が追加され、より柔軟な環境対応力が問われます。さらに、走行体のタイヤが小型化され、搭載カメラも変更されたことで、安定走行や画像取得の手法に再検討が必要となっています。技術的な工夫や検証の積み重ねが、各チームの成果を大きく左右することになるでしょう。
ETロボコンは、モデルベース開発を軸に、実践力とチームワークを育む貴重な場です。参加者の皆様が試行錯誤を重ね、「探究心」を形にしていく姿を、実行委員一同心より応援しています。
皆様の熱意と挑戦が、今年の大会をさらに充実したものにしてくれることを期待しています。未知への挑戦を、どうぞ存分に楽しんでください。

ETロボコン実行委員会
本部・運営委員長

株式会社アフレル

櫻井 隆

エンジニアは、プロジェクトを段階的に整理し、順序立てて進めることを好む傾向があります。それは、論理的に物事を捉える姿勢や、リスクを最小限に抑えたいという意識の表れでもあります。しかし、実際の開発現場では、計画通りに進まないことが多く、予想外の課題や想定を超える状況に直面するのは日常的です。
だからこそ、重要なのは「経験から学ぶこと」— 実際に手を動かし、試行錯誤を重ねる中で得られる気づきや成長です。そして、それを支えるのが、仲間との対話や相互理解を深めるコミュニケーションの力にほかなりません。
ETロボコンは、技術を競う場であると同時に、多様な価値観や視点が交差する"学びの場"でもあります。異なるバックグラウンドを持つメンバーと対話を重ね、「伝える力」「受け取る力」を養うことができます。なぜこの設計にしたのか、どんな意図を持って取り組んだのか。それを言葉にして共有し、互いの立場や思考を理解しながらチームとして最適解を導く。そのプロセスこそが、エンジニアとしての「技術力」に加えて、「信頼される力」や「協働する力」といった、人としての総合的な力を育ててくれます。
今年もまた、「学び続けること」の価値を改めて実感できる場となりました。競技を通じた気づきや、フィードバックを通じた振り返り、そしてチームの垣根を越えた多様なコミュニケーション。それぞれの瞬間から、新たな学びの種が数多く芽生えたことを、心から嬉しく思います。この貴重な機会を支えてくださったスポンサーの皆様、そして熱意と創意に満ちたすべての参加者の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

本部／地区実行委員名簿

本部実行委員

顧問	清水 尚彦	東海大学
顧問	二上 貴夫	株式会社東陽テクニカ 特定非営利活動法人SESSAME
実行委員長	星 光行	株式会社ジェイテック
		一般社団法人組込みシステム技術協会 参与
技術委員長	引地 政征	日本工学院北海道専門学校
技術副委員長	森田 挙	
技術委員	小田島 哲也	
技術委員	椎根 久嗣	TDCソフト株式会社
技術委員	丹代 亮	富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
技術委員	棚橋 二朗	北海道情報大学 経営情報学部
技術委員	辻村 浩史	
技術委員	宮田 哲	ニューウェイブシステムラボ株式会社
技術委員	矢部 憲哉	
審査委員長	高橋 寛之	ウーブン・バイ・トヨタ株式会社
審査副委員長	土樋 祐希	富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
審査委員	淺井 清美	学校法人岩崎学園 情報科学専門学校
		教務部教務課 実践AI科 学科長
審査委員	久保秋 真	株式会社チェンジビジョン
審査委員	幸加木 哲治	
審査委員	斎藤 司	ニューウェイブシステムラボ株式会社
審査委員	鈴木 尚志	株式会社コギトマキナ
審査委員	鄭 顕志	国立情報学研究所
審査委員	中嶋 栄次	株式会社豆蔵
審査委員	福田 和也	レーザーテック株式会社
性能審査団	京増 司	
審査アドバイザー	鷲崎 弘宜	早稲田大学 理工学術院 教授
		国立情報学研究所 客員教授
運営委員長	櫻井 隆	株式会社アフレル
運営副委員長	宮川 芳之	株式会社ソフトウェアコントロール
運営委員	松谷 輝美	
運営委員	根來 澄子	特定非営利活動法人TOPPERSプロジェクト
運営委員	横井 尚子	特定非営利活動法人SESSAME
事務局	眞田 加奈子	株式会社アフレル
事務局	山本 智	株式会社アフレル
共同企画委員長	江口 亨	有限会社イケハウス
共同企画委員長	小林 靖英	株式会社アフレル
共同企画委員長	渡辺 博之	株式会社エクスモーション
		一般社団法人組込みシステム技術協会 理事

北海道地区実行委員

実行委員長	引地 政征	日本工学院北海道専門学校
技術委員長	稲地 稔	NECソリューションイノベータ株式会社
技術副委員長	石塚 哲也	日本工学院北海道専門学校 情報処理科
審査委員長	堂下 貴弘	リコーITソリューションズ株式会社
審査副委員長	滝谷 侑嗣	リコーITソリューションズ株式会社
性能審査団	秋田 真奈美	NECソリューションイノベータ株式会社
運営副委員長／事務局長	北田 義孝	北海道科学大学 電気電子工学科
事務局長	長崎 健	公立はこだて未来大学 システム情報科学部
実行委員	市村 隼汰	日本工学院北海道専門学校 ITスペシャリスト科
実行委員	伊藤 良平	育英館大学 情報メディア学部
実行委員	奥野 拓	公立はこだて未来大学 システム情報科学部
実行委員	尾崎 州平	北海道情報大学 経営情報学部
実行委員	尾崎 博一	北海道情報大学 経営情報学部
実行委員	葛西 秀浩	株式会社エスイーシー
実行委員	小泉 真也	育英館大学 情報メディア学部
実行委員	古賀 信哉	株式会社アットマークテクノ
実行委員	齋藤 健司	北海道情報大学 情報メディア学部
実行委員	佐々木 伸幸	有限会社サンビットシステム
実行委員	辻本 純平	旭川工業高等専門学校 システム制御情報工学科
実行委員	中村 喜彦	苫小牧工業高等専門学校 創造工学科
実行委員	廣奥 暢	北海道情報大学 情報メディア学部
実行委員	水野 昇幸	
実行委員	吉村 斎	苫小牧工業高等専門学校
事務局	棚橋 二朗	北海道情報大学 経営情報学部
事務局	中川 圭太	育英館大学 情報メディア学部

東北地区実行委員

実行委員長	新井 義和	岩手県立大学
実行副委員長	大関 一陽	株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ
技術委員長	秋田 敏宏	八戸工業高等専門学校
技術委員	赤川 徹朗	八戸工業高等専門学校
技術委員	武田 敦志	東北学院大学
技術委員	二瓶 貴之	地方独立行政法人岩手県工業技術センター
技術委員	平山 貴司	岩手大学理工学部
審査委員長	今井 信太郎	岩手県立大学
審査委員	池田 聡	DANANG NIPPON SEIKI CO., LTD
審査委員	佐藤 征宏	アルプスアルパイン株式会社
審査委員	成田 匡輝	岩手県立大学
運営委員長	小野 和紀	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室
運営委員	小澤 健一	株式会社ジェーエフピー
運営委員	中野 亜希子	滝沢市経済産業部企業振興課
運営委員	松原 淳一	アイシン・ソフトウェア株式会社
監事	柳原 哲史	盛岡市 商工労働部 ものづくり推進課 立地創業支援室
事務局長	熊谷 克行	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室
事務局員	佐々木 守衛	公益財団法人いわて産業振興センター
事務局員	槻山 駿人	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室
事務局員	内藤 勝	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室
事務局員	西村 祐紀	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室
事務局員	細越 里枝	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室
事務局員	吉田 真二	公益財団法人いわて産業振興センター
事務局員	和川 秦	岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室

東京・北関東地区実行委員

顧問	鷲崎 弘宜	早稲田大学 理工学術院 教授
		国立情報学研究所 客員教授
実行委員長	宮川 芳之	株式会社ソフトウェアコントロール
実行副委員長	荒井 潤弥	新潟経営大学
技術委員長	椎根 久嗣	TDCソフト株式会社
技術副委員長	小田島 哲也	
審査委員長	上保 朝美	
審査相談役	阿左美 勝	
運営委員長	山崎 奈央子	情報技術開発株式会社
実行委員	新 吉高	日立Astemo株式会社
実行委員	青佐 美紀	
実行委員	飯島 雄	株式会社エヌデーデー
実行委員	石見 成行	日本精機株式会社
実行委員	遠藤 尚人	株式会社 NS・コンピュータサービス
実行委員	大川 晃一	日本電子専門学校
実行委員	尾島 寛明	株式会社 両毛システムズ
実行委員	小幡 香苗	メビックス株式会社
実行委員	桂川 誠	
実行委員	京増 司	
実行委員	河本 典秀	
実行委員	小林 和貴	
実行委員	佐藤 卓也	
実行委員	澤田 真理子	情報技術開発株式会社
実行委員	島田 俊一	イイプラス株式会社
実行委員	末冨 暢	
実行委員	鈴木 但義	スズタ技術士事務所
実行委員	須永 毅	株式会社テクノプロ　テクノプロ・デザイン社
実行委員	高橋 修司	株式会社図研
実行委員	高橋 寛之	ウーブン・バイ・トヨタ株式会社
実行委員	田苗見 潤	株式会社ソフトウェアコントロール
実行委員	田中 莉加	情報技術開発株式会社
実行委員	永井 孝	ものつくり大学
実行委員	中木 潤一	
実行委員	羽角 伸一	
実行委員	深澤 慶行	株式会社アイネット
実行委員	古谷 聡	
実行委員	星野 恵	
実行委員	堀井 雅史	株式会社 NS・コンピュータサービス
実行委員	保屋松 彩佳	
実行委員	三井 実	ものつくり大学
実行委員	森田 挙	
実行委員	幸 諒真	OMデジタルソリューションズ株式会社
事務局	櫻井 隆	株式会社アフレル
事務局	眞田 加奈子	株式会社アフレル
事務局	平谷 恵里	株式会社アフレル
名誉実行委員	稲邉 優香	

南関東地区実行委員

実行委員長	杉浦 英樹	富士フィルムビジネスイノベーション株式会社
技術委員長	小倉 信彦	東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科
技術副委員長	石井 彰弘	富士フィルムビジネスイノベーション株式会社
技術委員	佐々木 智志	湘南工科大学
技術委員	宮田 哲	
技術委員	山田 良祐	ＴＤＣソフト株式会社
技術委員／性能審査委員	吉田 侑以	アンリツ株式会社
審査委員長	南川 恭洋	富士フィルムビジネスイノベーション株式会社
審査委員	高橋 千弘	アンリツ株式会社
審査委員	森 健太郎	ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
審査アドバイザー	林 啓弘	アンリツ株式会社
運営委員長	吉留 忠史	神奈川工科大学 創造工学部
		ロボット・メカトロニクス学科
運営副委員長	横田 直樹	ＴＤＩプロダクトソリューション株式会社
運営副委員長	吉野 太智	横浜システム工学院専門学校
運営委員	淺井 清美	岩崎学園　情報科学専門学校
運営委員	池谷 浩樹	コマツ
運営委員	小倉 響	
運営委員	岸本 悟志	
運営委員	北村 成章	コマツ
運営委員	渋谷 尊司	
運営委員	髙田 征太郎	アンリツ株式会社
運営委員	高橋 晋	ジスクソフト株式会社
運営委員	田中 裕一	京セラ株式会社
運営委員	田村 純一	
運営委員	塚田 雄一	SOLIZE株式会社
運営委員	松谷 輝美	
運営委員	眞弓 龍太郎	京セラ株式会社
運営委員	元木 誠	関東学院大学
運営委員	吉澤 大	

東海地区実行委員

顧問	高田 広章	名古屋大学大学院情報学研究科
実行委員長	河野 文昭	
実行副委員長	丸 雅光	
技術委員長	瀧川 正史	
技術顧問	塩見 彰睦	静岡大学情報学部
審査委員長	酒井 英子	株式会社デンソー
運営委員長	堂浦 陽文	株式会社デンソー
運営顧問	曽根 卓朗	静岡大学
教育委員長	杉浦 友紀	株式会社デンソー
実行委員	青山 幸文	スズキ株式会社
実行委員	石田 賢宏	
実行委員	磯田 直也	ヤマハ発動機株式会社
実行委員	榎本 宏	株式会社デンソー
実行委員	清水 宏時	パルステック工業株式会社
実行委員	下位 直弘	株式会社コー・プランニング
実行委員	古谷 寿基	
実行委員	水野 勝教	愛知工業大学
実行委員	山郷 成仁	株式会社デンソー

関西・北陸地区実行委員

実行委員長	岩橋 正実	イワハシ工学
技術委員長	野口 貴弘	
審査委員長	館 宜伸	愛知工科大学
運営委員長	都甲 隆之	
実行委員	五十嵐 貴之	
実行委員	入江 弘憲	リコーITソリューションズ株式会社
実行委員	岩本 康宏	パナソニック株式会社
実行委員	勝見 哲也	株式会社Communication Technologies Inc.
実行委員	城所 正博	パナソニック株式会社
実行委員	小島 崇	株式会社ジェイテクト
実行委員	佐藤 亨	
実行委員	清水 康浩	特定非営利活動法人SESSAME
実行委員	白羽 千賀子	
実行委員	冨田 佳代	株式会社富士通ラーニングメディア
実行委員	中森 勝	
実行委員	中山 彩圭	
実行委員	西野 與志子	株式会社富士通ラーニングメディア
実行委員	羽田 珠沙希	株式会社 Value.C
実行委員	松浦 融	
実行委員	山本 修一	
実行委員	横田 望	
事務局局長	松尾 圭浩	株式会社富士通ラーニングメディア

中四国地区実行委員

実行委員長	香川 直己	福山大学 工学部 電気電子工学科
技術委員長	三輪 昭生	
技術副委員長	森重 智年	
審査委員長	松原 宏晃	リコーITソリューションズ株式会社
運営委員長	渡辺 博文	ヒロコン株式会社
運営副委員長	松原 美奈子	株式会社BTM
実行委員	川口 善之	株式会社ジェイテック
実行委員	重松 史哉	
実行委員	平井 敦士	
実行委員	平井 美幸	
実行委員	若松 大雅	
事務局	脇坂 和也	福山大学 工学部 電気電子工学科

九州北地区実行委員

顧問	牛島 和夫	九州大学名誉教授
顧問	福田 晃	特定非営利活動法人QUEST 会長／
		九州大学名誉教授／九州大学特任教授
技術委員長	甘田 哲久	特定非営利活動法人QUEST
技術委員	塚本 誠	株式会社エフェクト
技術委員	野下 正伍	JR九州システムソリューションズ株式会社
技術委員	山下 昭仁	株式会社コア 九州カンパニー
審査委員長	安武 芳紘	九州産業大学 理工学部 情報科学科
審査委員	久住 憲嗣	芝浦工業大学
審査委員	廣重 法道	福岡大学 工学部 電子情報工学科
性能審査団	下島 真	長崎総合科学大学
運営委員長	澤田 直	九州産業大学 理工学部 情報科学科
実行委員	今村 彰則	学校法人コア学園 唐津ビジネスカレッジ
実行委員	松田 昭信	西日本工業大学
事務局	芦原 秀一	特定非営利活動法人QUEST
事務局	小寺 千登勢	特定非営利活動法人QUEST
事務局	馬場 伸一	特定非営利活動法人QUEST

九州南地区実行委員

実行副委員長	宮内 亮一	東京理科大学 工学部 電気工学科
審査委員長	片山 徹郎	宮崎大学 工学教育研究部
運営委員長	芝 浩二郎	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科
		名誉教授
運営委員	坂元 忠重	株式会社システムファクトリーかごしま
運営委員	玉利 陽三	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科 教授
運営委員	向原 健太	株式会社ソフト流通センター
実行委員	佐藤 拓弥	株式会社スカイコム
実行委員	熊澤 典良	鹿児島大学 理工学研究科 准教授
実行委員	下園 幸一	鹿児島大学 学術情報基盤センター
実行委員	吉本 幸芳	株式会社ARP

沖縄地区実行委員

実行委員長	大城 周児	ユーマーク株式会社
技術委員長	五藤 三樹	沖縄職業能力開発大学校 電子情報技術科
技術委員	金城 大志	
技術委員	中野 亜求了	沖縄職業能力開発大学校
		生産電子情報システム技術科
審査委員長	金城 秀樹	沖縄大学 経法商学部 経法商学科
審査委員	名嘉村 盛和	琉球大学 工学部
運営委員長	大城 尚紀	琉球大学 工学部
		エネルギー環境工学コース
運営委員	板良敷 朝計	一般財団法人 沖縄ITイノベーション戦略センター
運営委員	玉城 侃智	ユーマーク株式会社
運営委員	森田 哲次	
事務局	長堂 真奈美	株式会社国際システム

参加者の声

株式会社CIC
循環型人材育成が育んだ全国制覇

CICでは、2022年より新入社員研修の一環として、ETロボコン「エントリークラス」への参加を開始しました。この取り組みでは、前年の参加者がサポート役としてチームに加わることで、「教える立場」と「学ぶ立場」の両方を実践的に経験できる育成環境が整えられています。

この仕組みのもとで出場したチームは、優れた成績を収めました。参加メンバーたちは翌年度のチームでサポート役を担い、後輩たちの活動を支えることで、循環型の人材育成体制の構築に貢献しています。

特筆すべきは、「サポート役」としての経験が、彼ら自身の成長にも大きな影響を与えている点です。技術力の深化にとどまらず、チーム運営力や課題解決力、後輩との円滑なコミュニケーション力など、実務で求められる多様なスキルを実践の中で培ってきました。中には、すでに社内外のプロジェクトで中核的な役割を果たし、ロボコンでの経験が次のキャリアステップへの自信と原動力となっているメンバーもいます。

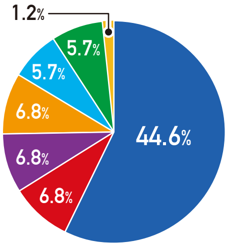
【株式会社CIC】
※記事の全文はこちらのQRコードからご覧いただけます。

ETロボコンに参加する理由は？

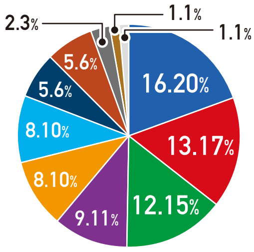
2024年度ETロボコン参加者アンケート結果より

企業 **教育機関**

ETロボコンへの参加目的として該当するところを選択してください（複数選択可）。

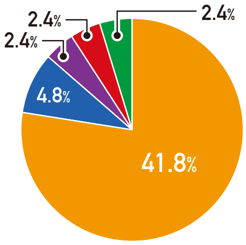


■自身（チームメンバー含む）の技術力向上（自己啓発含む）
■技術交流・人的交流

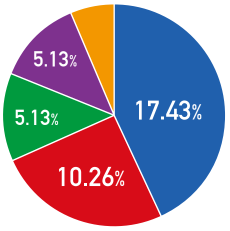


■システム制御演習
■卒業研究
■情報・知識収集
■就職に有利
■プロジェクト演習
■システム制御演習
■社会人基礎力向上

参加形態についてあなたが該当するところを選択してください。



■1年目
■2〜3年目
■6〜10年目
■4〜5年目
■10年以上



■研究室での参加
■授業の一環（単位取得も含む）
■有志による活動（学校とは関係ない）

エンジニア一人ひとりの質の向上

学校では学べないことを学ばせたい

ETロボコン2025 チャンピオンシップ大会

11.19（水）〜21（金） In パシフィコ横浜 併催 EdgeTech+ 2025

オンライン説明会実施中！

KOMATSU
Panasonic AUTOMOTIVE Panasonic ITS Co., Ltd.
ADVICS
eXmotion
FUJIFILM 富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社
systena

ETロボコン2025大会パンフレット
●制作・発行／ETロボコン実行委員会
●企画・編集／ETロボコン実行委員会運営・パンフレット制作WG